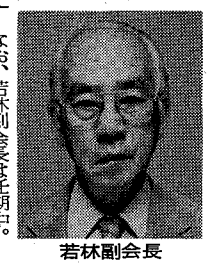
東京亀城会報

発行所
東京亀城会
東京都港区南青山5—9—12
アイサワビル　〒107
阿部鉄一事務所
電話　(400)　1151
郵便振替東京4—24020
発行人　河村　竜郎
編集人　佐々木高一
定価　1部150円

会長、佐藤副会長再任
新副会長に内山氏（十五回卒）
——五九年総会——

河村会長


若林副会長

佐藤副会長

内山副会長

五九年度、東京亀城会総会は、一〇月二六日午後六時から、一昨年、昨年と同じ会場、東京新都心、新宿区西新宿のサンエービル十五階会議室で曽根原重郎（九回卒）五九年度総会執行委員長、土屋剛（十九回卒業）副委員長のもと、司会本間英生氏（二九回卒業）で開催された。

総会は、まず任期が満了した河村竜郎（九回卒業）会長、佐藤昌祐（十三回卒業）副会長の役員選考に入り、満場一致で、再任をお願いすることになり、また一名欠員となっていた副会長に内山敬司氏（十五回卒業）を選出した。

なお、若林副会長は任期中。

次いで事務局に二九回生より提出されていた「従来の顧問制度を廃止し、最高顧問制を設ける件、事務局長を総会において指名する件」の両案を審議、提案通り改正された。

最高顧問に小松直幸氏（二回卒業）を推薦、事務局長に阿部鉄一氏を指名、承諾をえた。

次いで来賓各位からのご祝辞を頂いた中で、本年からご出席頂いた酒田高等女学校、酒田西高等学校同窓会支部「東京有煙会」会長小野タケ江様からのものは特に、男女席を同じくせずの戦前卒業生感に銘を与えた様子。

次いで司会本間充氏（二九回卒業）で懇親会に入り、毎年恒例となった郷土の味覚「玉こんにゃくの醤油煮」、エゴ、胡麻豆腐と共に、特に本年は後藤吉修、永寿幸雄両氏（共に二九回卒業）の腕を振われた料理を肴（さかな）に賞味。ご寄贈を受けた、初孫、亀楽、上喜元などの地酒を心ゆくまで堪能、新都心の一角に亀城会の意気を上げた。

お土産には、十年以来毎年の「小松屋」の銘菓、港塩納豆、銘酒〝初孫〟、それに本年は阿部昭吾代議士（二三回卒業）のお力添えで、庄内米を一升づつ頂き帰路についた。

第五回発行のご挨拶

東京亀城会会長　河村竜郎

今般第五回の東京亀城会会報が発行されました。会員はこれらによって現況ならびに関係記事の様子を熟知し、その活動および健康を知ることができる。

わたくしは郷里をでて約五〇年近く化学工業技術に関係しており、最近はこれらの郷党の仕事をお手伝いしている。これらの仕事には、原料、技術、拡販などの各範囲に他より安価に製品化することが必要である。わたくしたちの石油化学工業は昭和五十八年度の出荷額は約七兆円の規模であるが、とくに昭和四八年および五四年の価格上昇によりその競争力は喪失し、本邦のアンモニアは昭和四七年の四六一万トンから現在の二〇〇万トン以下に、石油化学原料としてのエチレンは昭和五四年の四七九万トンから三六〇万トンへと低下せざるを得なくなったことは承知のとおりである。

わたくしたちは、鳥海の黙示、最上の長江、三郡の浜野の下堅実無比の作業性を実受しており（これらは「所与性の自然認識とその活用」という言葉で先年示したところである）、これらを基本として新規、安価の技術を達成することが望ましい。

会員諸兄のご活躍をお願いいたしたい。

亀城同窓会々長に
中山岩男副会長就任

中山亀城会々長

昨年十一月の亀城同窓会総会で病気のため辞任された渡部暢夫前亀城会々長の後任の人選がおこなわれ、副会長で、昨年三月の緊急理事会で会長代行に就任されていた中山岩男副会長（四回卒）が七代会長に選出された。

中山会長は、明治四十四年酒田生れ、昭和三年酒田中学校卒業、逓信省を経て運輸省入り、海運局酒田支局長などを歴任、現在船舶登記などの海事代理事務を行う海事事務所所長。

挨拶

中山岩男（昭和三年卒業）

私は昨年十一月の亀城同窓会総会において、会長に就任いたしました。然しながら会館建設の大事業を乗りきるには、私のような者はその任にあらずと思いましたが衆議一決では抗しがたく、お引受けすることとなりました。まことに責任を痛感しております。

就きましては、皆々様のご協力なくして、この大事業を、まとめてゆくことは至難であると考えますので、何卒ご協力下さるよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、本会においては、ご承知のとおり、会館建設の実行を期成同盟会に、お願いして着々進んでいるのでありますが、現在、所期の目的に程遠く約一割の拠金となっておりますので、皆様より一層の御後援を賜わりたいと存ずるのであります。

この会館というのは、生徒の合宿所として使用させるために、本会が後援しているものでありますから何卒お含みのうえ後輩のために御賛同下さるよう切に、お願い申し上げる次第でございます。

御挨拶とお願い
亀城同窓会館建設期成同盟会長

和嶋茂男（昭和十八年卒業）

向暑の候　東京亀城会の皆様には益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

昨五十九年度東京亀城会総会にお伺いして御挨拶申し上げましたが、この紙上、お借りいたしまして、亀城同窓会館建設期成会の経過報告と、御協力のお願いを申しのべたいと思います。

趣意書にもるる記しましたが、昭和五十四年度同窓会総会で三一会より同窓会館建設の発議がなされてから四年間、理事会での検討と、理事会の指示による建設小委員会（二十七回から二十七回まで各卒業回期代表三名ずつ計三十三名で構成）における構想・建築素案・資金計画等の検討を重ねて答申案をまとめ、昭和五十八年度総会において、期別募金方式による同窓会事業として、母校創立六十五周年記念（昭和六十年）を目途に会館建設案が決議されました。

その目指すところは、端的に申しますと、同窓会館としての機能と在校生の宿泊研修・合宿の機能を兼ね備えたものとし、もって母校の発展に資するものとしています。

五十九年六月二十日に建設期成同盟会が発足、総務部・資金部・建設部各部会において実行原案作成の作業に入りました。十一月十日昭和五十九年度同窓会総会において原案が決議されると同時に、趣意書を発送し、同窓生各位の御協力をお願い申し上げた次第であります。

以来、六ケ月を経過しました本年三月末日の一次締切りでは、各卒業回期別資金部員はじめ期成同盟会役員の御霊力と、同窓各位の御厚意により、約一、三〇〇人計三〇〇〇万円となりましたが、募金予定額一億五千万円の約二割であり、目標には未だへだたりがあると報告申し上げざるを得ません。

趣意書にてのべました趣旨に一層の御理解をいただき、母校の発展と後輩のため、御協力を賜わりますよう重ねてお願い申し上げる次第であります。

（荘内証券社長）

東京亀城会総会のお知らせ

昭和60年11月8日（金曜日）
午後6：00より
会場　後楽園会館
◎評細は10面にあります。

亀城提言

戦後四十年、振り返ってみると実にアッという間ですが、その間の文明の進歩は実に目覚ましいものがあります。人類史約一万二千年といはれる過去を辿ってみても、今日のような急激な文明の開花は例を見ません。

今、人類は月を捉え、宇宙空間えの第一歩を踏み出すという希望に溢れた瞬間を持っています。が反面この地球上には、未だに戦いと飢餓と貧困に苦しむ人々が数多く存在し、そしてそれ等の運命を左右する強大国が、全人類を抹殺し得る核爆弾を掌中にしているという現実があります。人類が栄光の未来社会に大きく羽ばたく日が来るのか？核戦争によって一万二千年の人類史にピリオドを打つのか？、時代はその選択の最大関節にさしかかっているといえます。平和か滅亡かなのです。

この両極端の現状を、今より六十年前に適確に見通した人がをります。故郷庄内の生んだ哲人石原莞爾先生です。先生は、民族、国家の綜合力を最大限に発揮して行はれる戦争そのものを、科学的に解明することによって、近い将来戦争は必ずなくなると断言した今世界で只一人の人です。

（短期決戦）最終戦争産業大革命政治的統一思想信仰の統一物資の充足→世界統一→永久平和

右は先生の最終戦争史観を要点だけ簡容に掲げたものです。これを見る限り、永久平和えの道には最終戦争という一大障壁をくぐり抜けるという試練があります。今日の常識では、最終戦＝核戦争で、地球全人類の滅亡をもたらしかねないとの大前程に立つことになります。事実、先生自らが語られた記録によりますと、「降るとみて笠とる暇もない位の短期決戦で、しかもその惨害は、全地球の全ての都市と工場施設を破壊し去り、全世界の三分の二の人口が失われるであろう」と述べられてをります。永久平和の代償としてはあまりにも苛酷にすぎます。このことは、先生御自身が自らの軍事学上の結論に終始悩み続けられることにもなるのですが、昭和二四年八月十五日、その六十年の生涯を終えられる前年の十一月に、始めて悲願というべき次の言葉を遺されるのです。

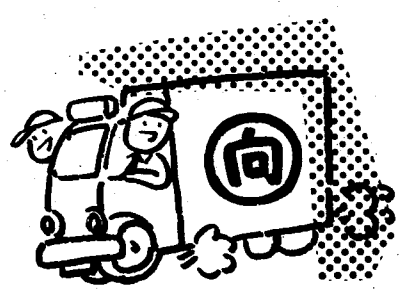
「私どもは完全に戦争を放棄したのです。われわれは断じて利害を抜きにして、立正の大精神に立って国策を律して行かねばならないと思います。日本は蹂躙されてもかまわないから、戦争放棄に徹して生きて行くべきです。ちょうど聖日蓮が竜ノ口に向って行くあの態度、キリストが十字架を負って刑場に行くあの態度を国家としてとる必要がある。」

今、世界中に沢山の平和論者がをります。がしかし、一国を挙げて平和の為には、あらゆる受難を耐えようではないかと叫ぶ人があるでしょうか？

私達は、先哲の見通しのとおり、戦争のない平和社会の到来を信じ、その為には、何としても最終戦を回避すべく、武器と国境のない世界造りを全人類に提唱すべきです。たとえそれがどんなに苦難の道であっても全人類の為歩み続けなければならないのではないでしょうか。（仲條立一）

呉竹　柚子甘
小松屋
酒田市日吉町一丁目
TEL 22—5151(代)
売店ご案内
酒田
●マリーン5店　☎(0234)24—5237
●Aコープさかた店　☎(0234)24—6627
鶴岡
●鶴岡店（きむら）　☎(0235)22—0580
東京
●有楽フードセンター　☎(03)561—6708

前田製管株式会社
取締役会長　前田　巌
取締役社長　前田直己
本　社　山形県酒田市上本町6番7号
TEL. 0234(23)5111
東京支店　江東区東陽3-23-21（東陽ビル）
TEL. 03(649)7021

40年の豊富な経験と実績にもとづき
お客様のニーズに応える輸送を
お引受けします。

向島運送株式会社
酒田営業所
山形県酒田市大字宮海字中砂畑27—13
☎0234(34)2146(代表)

信以成之
企業グループ
本間物産株式会社
東京支店
〒103 東京都中央区日本橋小伝馬町15番18号
日本橋SKビル
電話（03）639—9771（代）
本　社　山形県酒田市本町1丁目2番55号
電話（0234）24—4511（大代）

いつも変らぬ新米の味
庄内米
ササニシキ
おにぎりちゃん
庄内米シンボルマーク
山形県庄内経済農業協同組合連合会
酒田市山居町二丁目3番8号　☎(0234)23—4111(代)
東京駐在所
東京都千代田区内神田三丁目5-5大同ビル　☎03(254)1456

インタビュー　第三回

なぜ今酒田に進出したか……

スワ・セイコー副社長、エプソン社長　中村恒也氏（十六回卒業）

酒田中学、酒田高校、酒田東高と校名は変ったが、亀ケ崎城に集（つど）い、学び、そして散って行った同窓生は一万四千人となっている。この中で、多士済済の人物が各界で活躍、日本社会の担い手となっているが、このシリーズはその中での、異色の同窓生を紹介して行く。

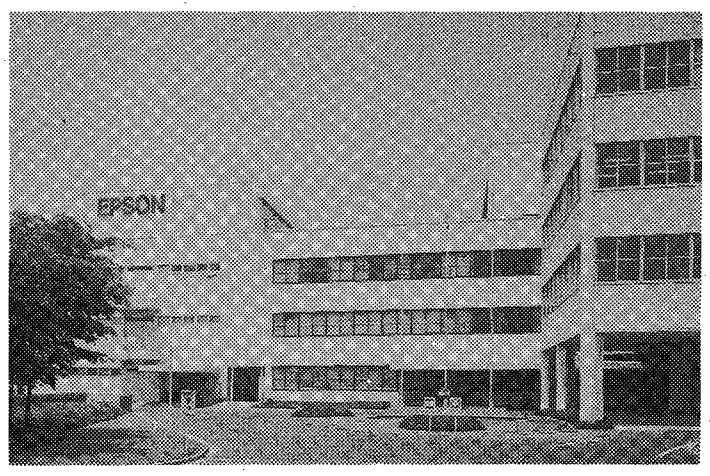
今回は、四月スワセイコー・エプソン・グループ（本社長野県諏訪市、塩尻市）の庄内電子工業㈱（代表取締役小田切秀穂氏）が、酒田市川南地区に用地四四㌶を取得。六二年度操業開始予定で工場進出を決めた。

この進出について大変な協力をされた諏訪精工舎副社長、エプソン社長、中村恒也氏（十六回卒業酒田市出身）に聞いてみた。

――この前（三月）にお会いした時は、まだ進出が決定しなかったので、お聞きできなかったことも多かったので、また御足労を煩わせてすみませんでした。

まず、どうして酒田に進出をお決めになったのでしょう……

スワセイコー・エプソングループは、諏訪、松本、伊那地域を中心に、約一万人の従業員を擁する企業グループですが、県外進出を決めた理由としては、人の問題、つまり良質の労働力が充分に得られなくなったこと、さらにはインフラ関係の諸条件を満たした工場用地の確保が難しくなったこと等があげられます。



―エプソン松本事業所―

「人材豊富な庄内地方」

中村さん

そこで酒田をはじめ全国各地の候補地を調査したのですが、長野県下では拡充できなかった分を、色々な調査の結果酒田でなら補うことが出来ると結論がでたからです。一部に今度の酒田進出は、私が酒田出身であることが理由であるかの報道がされましたが、そのようなことはありません。

企業の方針というのは、そんな地縁などで左右できるものではなく、あくまでも客観的に調査した結果にもとづき、決定をしたものです。

――この間のお話しの中で、水の問題が出ましたが、立地条件は満足なさっておるのですか――

水の問題、電気の問題、塩害などありますが、いずれも今の技術で対応できる見通しです。ただそのために特別のことをやらなくてはならないわけですね。それがどれだけ製品のコスト高になるかでこれらの隘路をいかに切り開いてゆくのかが、重要なポイントです関係者の智慧をお借りして問題解決に努力するつもりです。

――もう、地元からの就職を採用したとか――

現在、本年採用の六七名（高卒）の方にこちらに研修に来て頂いております。男子の大卒も採用したかったんですが、タイミングを逸したためい人が来て頂けず、結果的に今年は採用ゼロとなりました。六七名の皆さんは現在、各方面で実習中です。これは最終的にはまだ酒田でなにをどう作るか決定していないため、どのようにでも対応できるよう考えているからです。

ご承知のとおり、私どもの関係する業界は、し烈な競争下にありこの他に貿易摩擦についても考えてゆかなくてはなりません。そういったことを考慮に入れ、企画を練っている段階です。したがって半導体工場をつくるなどということも断定的にはいえません。

基本的には、長期計画にもとづき長野県下では拡充が難しくなっている現状をふまえて、酒田は単なる分工場ではなく、東北地方の拠点にしたいと考えています。

――実は私がびっくりしたことが一つあるんですが、酒田の方でエプソンという会社の名前を知らないという人がいるので驚いたんですが……

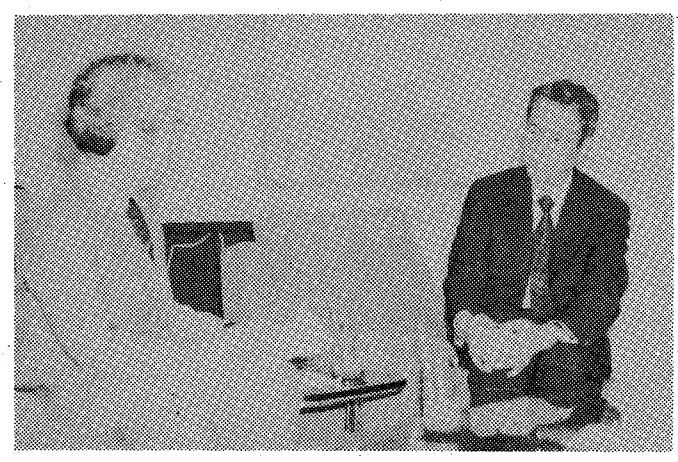
いえ、それは知らない人がいても一向にかまわないと思います。学生は知っているんですか、先生も知らない、お母さんも知らないそれで就職の場合、お母さんを説得するのに骨がおれますから宣伝をもっとして下さい。という学生がいました。宣伝に金を使うことは、簡単にできる。しかし私は、企業イメージづくりは、すべての企業経営活動を通じて、じっくりと長いイメージを作っていくものであると考えています。したがって、逆にいえばエプソンは社名をかえてわずか二年の間に、我々の考えている良い企業イメージで知れ渡ったと驚くくらいです。

大メーカーさんと比べれば、まだまだの会社ですが、とにかく立派な会社にして、皆さんに喜んでいただけるようにしたいと考えています。

また、庄内電子工業についても一流企業に育てたいと考えており同窓生の皆様にも、お力添えをいただけるよう、お願いしたいと思います。

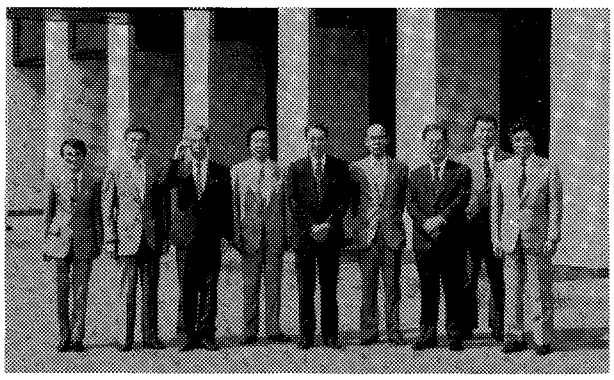
――どうも有難うございました

（インタービュー、阿部鐵一）


エプソン販売本社応接室にて

エプソン株式会社

昭和三六年信州精器㈱として設立、三九年東京オリンピックの公式計時記録装置を開発して注目される。四三年デジタル・プリンタ（コンピュータ等のハードコピー出力機）現在のシエアは国内生産七十％、主力製品となっている。昭和五七年エレクトリック・プリンターの頭文字E・Pとサン（息子）を合せた和製英語EPSONと社名を変更。液晶表示体、コンピュータ、周辺機器、パソコンなどの部門で独創的な製品を発表。新製品開発で常に業界で話題となっている。最近では超小型テレビ「テレビアン」を発売。資本金八億八千万円。五八年売上高一、四八四億円。従業員数二、六〇〇人（内男一、六〇〇人）



東京亀城会常任理事ら

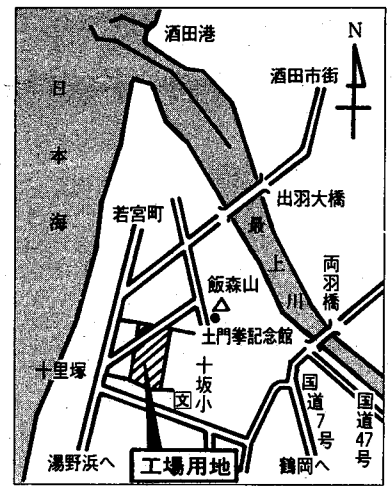
スワセイコー本社を訪問

七月十八日、当会常任理事有志が、長野県諏訪市の諏訪精工社本社に副社長の中村恒也氏を訪問した。

二時間にわたって、中村氏より諏訪精工社とエプソン㈱の酒田進出の意義及び日本のメカトロニクスと国際情勢の分析などをお聞きし質疑応答で企業の概要今後のこの業界の動向を認識した。

次いで、スワ・セイコー、エプソングループの中でも、最新鋭の設備を誇る塩尻工業㈱の輸出用時計ムーブメント（内部機械部分）の自動製造工程部門を見学。

広い工場内のほとんどのライン工程が、無人化され、工業用ロボットだけが作業しているのを見てハイテクノロジーの現況を改めて認識した。（写真は本社前）



郷土会だより

五十年も続く「松山会」

今年の在京松山会は、五月六日に池袋・自雲閣で盛大に行われた。

松山会は元々、旧・在京松嶺会から発展したもので、すでに、半世紀以上の歴史を有し、今年は、約七〇名の参加をみた。（昭和三九年卒業、後藤吉修氏報告）

「平田会」誕生

去る六月二十一日の日曜に池袋東方会館で「首都圏ふるさと平田会」が誕生した。

この首都圏ふるさと平田会は本年三月二十三日第一回の設立準備会を祀の端文化会館に於いて行なって以来総会当日まで約三ヵ月間に於いて二八二名の入会希望者が集りました。

この会は平田町出身者同志の情報交換を選び心の寄り所、親睦会であると同時に常に生れ故郷平田町の発展に協力をして行くために作られたものであります。

会長　阿曽歳巳　副会長　片岡銀作　久松公郎　佐藤悦彦　事務局長　堀広士（敬称は省略。（昭和二五年卒業、佐藤悦彦氏報告）

▽東京高瀬会

東京都大田区山王二丁目四一一二五佐藤重太郎氏〒一四三電話七七三一三〇七四

▽東京遊佐会

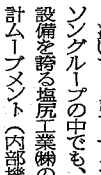
東京都大田区東矢口二丁目六一二〇昭南工業㈱小松研悦氏〒一四六電話七五九一三〇七四

東京亀城会第二代会長
東京亀城会顧問
小松小児科医院
医師　小松直幸
（大正一五年卒業）
荒川区東日暮里三―二九―一二
電話　八九一―五四二六

衆議院議員
阿部昭吾
（昭和三三年卒業）
千代田区永田町
第二議員会館七二六号室
電話　五〇八―七四七六
山形県酒田市東大町二―一―六
電話　〇二三四（二二）七〇一六

酒田市長
相馬大作
（昭和三三年卒業）
山形県酒田市本町二丁目一四五
電話　〇二三四（二二）五一一一

東京都板橋区議会議員
区民衛生委員長
自由民主党本部同志会理事
大乗淑徳学園評議員
明治大学校友会代議員
佐藤悦彦
（昭和二七年卒業）
自宅　板橋区成増四―二八―五
電話（九三〇）三二七一

日刊工業新聞社相談役
褒章クラブ会長

（昭和五年卒業）
千代田区九段北一―八―一〇
電話　二六三―二三一一

社団法人　日本歩け歩け協会会長
（財）日本ユース・ホステル協会常任顧問
（財）東洋医学国際研究財団副会長
インドネシア文化の会会長
金子智一
（昭和七年卒業）
世田谷区上祖師谷三―二―一五
電話　四八三―二〇八七

学校法人渡辺学園
東京家政大学内
有限会社家政相互会
傷害火災自動車保険部
曽根原重郎
（昭和八年卒業）
板橋区加賀一―一八―一
電話　九六一―五二二六
自宅　〇四八四（七七）〇六四一

彫刻家

（昭和一四年卒業）
日展評議員・審査員
自宅　練馬区東大泉五―二五―二
電話　〇三―九二五―三二〇一

株式会社諏訪精工舎　副社長
エプソン株式会社　社長
中村恒也
（昭和一五年卒業）
長野県諏訪市大和三―三―五
電話　〇二六六（五二）三一三一

酒田文学の散歩道完成

昨年夏から整備が進められて来た酒田市日和山公園、山王森日枝神社境内を囲遊する〃文学の散歩道〃が、この四月、井上靖氏の『氷壁』の文学碑除幕式をオープン・セレモニーとして完成公開された。

この文学碑群は、新しくこの企画のために建設された十八基の文学碑をふくめて二十七基が道筋に配置されているもの。

松尾芭蕉の、あぶみや玉志亭での発句会の句碑を起点として、幸田露伴、秋沢猛、与謝蕪村、斉藤茂吉の「おほきなる流れとなれば ためらわず 酒田のうみにそそがんとす」の碑、野口雨情、若山牧水、鹿児島寿蔵、常世田長翠、東宮殿下（今上天皇陛下）、芭蕉「温海山や 吹浦かけて ゆふ涼」の碑、芭蕉「暑き日を、海にいれたり、最上川」の碑、井上靖、高山彦九郎、正岡子規、伊東不玉、子規「鳥海夕涼み 山に茶屋あり 松もあり」の碑、「かたまる雲や 秋日和」の碑、斉藤茂吉の「ゆたかなる最上川 口ふりさけて 光ケ丘にたてるけふかも」の碑、吉田松陰、竹久夢二、結城哀草果、時雨音羽、伊佐湖南、佐藤十弥、田山花袋、宝夏静、古今和歌集の「もがみがはのぼればくだる いなふねの いなにはあらず このつきばかり」の碑が終点となっており、延長千二百㍍、適当なアップ・ダウンがあり絶好の散歩道。約三十分の行程である。

終点近くには、約四㍍の酒田開港の恩人河村瑞賢翁像—写真—が、本年五月に完成。作者は本会会員、日展評議員、**高橋剛氏**（十五回卒業）。氏の代表作の一つとなるであろう傑作であり、酒田の新名所の一つである。そばの千石船の二分の一模型があるが模型としては日本一。

ふるさと便り

日和山公園、山王森を周回

まだまだ続く「おしん」ブーム

五十八年度から、一年間二百九十七回にわたって放送されたNHK朝のテレビ小説「おしん」は国内でのビデオパッケージ発売も好評だが、国外でも現在まで七ケ国に輸出されており、今後も増加しそうとのことであるが、当の酒田はどうであろうか。

酒田市内のロケ地あとには、「おしん」ゆかりの地として看板で表示してある程度で、他の有名放映ドラマの舞台となった都市と較べてちょっと控え目すぎる感がする。

もう一工夫が必要では……、でもあのドラマで酒田は有名になり、在京人はちょっと気のいい思いをしたものだった。

観光用無料貸出自転車

酒田市では、放置自転車を利用し、無料貸出車に転用、山居倉庫、酒田駅前、バスターミナルの三か所にそれぞれ十台づつが準備されている。

前かごに市のシンボル・マークの獅子頭、うしろに「観光用」のステッカーがはってある。

借りた人は、初めに利用したところに返却するのが原則。これ以外にはやかましい規則はないとのこと。

こんど帰省した時に利用してはいかが……。

酒田六中誕生

市街地東北部の宅地造成により生徒数が急激に増加した二中から分離して下安谷地に建設、四月新学期に開校した。

がんばれ！同窓生

⊠山形大学教育学部特設音楽科二年在学中の杉原かおりさん（五九回卒業酒四中）は、第一回「音楽現代」新人賞を受賞。一月九日、東京目黒区こまばエミナースで新人賞、優秀賞受賞者六名によるジョイント・リサイタルに出演、酒東高以来の同級生佐藤三貴さん（余目中卒業）のピアノ伴奏でチアレ作曲歌劇「アルルの女」の「フェデリコの嘆き」他をメゾ・ソプラノで歌唱—写真—絶賛を博した。杉原さんは、加藤千恵、石井忠吉の各氏に師事、将来が期待されている。

⊠七月六日、東京三越劇場で開かれた第二〇回新作歌謡発表会で、日本作詞家協会々員、浅沼久美子氏（三四年卒業）の「東京異邦人」が発表され、好評を博した。

東京異邦人
（エトランゼ）

作詞　浅沼久美子
作・編曲　藤原　秀行
歌　山下　洋子

㈠好きと嫌いで この世を分けて
暮らしていたのは 十九まで
嘘と嘘とが グラスにとけて
燃えたふりして たわむれる
哀しいね 哀しいね
いつもゆきずり 東京異邦人

㈡心変りが 哀しいなんて
たわごと言ってた 頃もある
クラブ止り木 誘われタバコ
同じ瞳をして 誰れを待つ
淋しいね 淋しいね
嘘を信じた 東京異邦人

㈢逢って別れて 別れて逢って
今じゃ泣かない 女です
その場かぎりの 優しさだけの
帰える背中を 見送れば
侘しいね 侘しいね
愛も掴めぬ 東京異邦人

⊠一月、東京上野、都美術館で開催された第三四回書道学会展に高橋大乗氏（本名隆、二一回卒業）の作品—写真—が第一部読売新聞社賞を受賞した。

同氏は五三年以来三宅剣龍氏に師事、サンケイ国際書会無鑑査

ご就任

▽十七回**瀬川賢二氏**、千歳電気工業㈱東北支店長（同東京中央支店）▽二一回**阿部善之助氏**、㈲ユニテック・コンサルタント取締役（日本通信建設㈱）▽二二回**佐久間正氏**、㈱簡保会館サービス代表取締役社長（アール・エフ・ラジオ日本取締役）

お願い

「ふるさと便り」「がんばれ！同窓生」などにふさわしい話題を事務局までお知らせ下さい。

会員の、ご就任やご転居もお知らせ頂ければ幸いです。

会員著書

巧妙な語り口

神奈川の歴史を歩く

片山文士
（本名加藤健太郎）
（昭和11年卒業）

ユニークな語り口の前著「語りべ日本の歴史」が出版社の都合で、続巻が延期されているが、今や神奈川の在野史家の第一人者となった著者の新書版本。題名の通り著者が講師となっている、「かながわ歴史散歩の会」での講義と現地での解説を、都内からでも日帰りできるコース別の項目で書かれている。

「歴史散歩の会」も五百名を超える大世帯になっているが、中心人物の著者の人柄によるところが多いといわれている。

文体は、「かたりべ日本の歴史」と同様に、語りかけ言葉で書かれているので、著者の説明を傍で聞くような気持で、読めるのが特徴となっている。

項目は、在り来りの観光的な視野ではなく、歴史と国家的人物との係わり合い、文化財の有無に重点を置いて作成され、大体徒歩五時間程度となっている。特にその寺や神社で出しているパンフレットにあるような説明はさけ、史実を中心に二十コースに別け執筆されている。

最もポピュラーなコース〃北鎌倉・扇が谷〃では、駆け込み寺、縁切り寺として有名な東慶寺の創建から寺法歴代住職の横顔、寺宝、縁切り関係文書、墓地の文化人の墓、特に女流文学賞の田村俊子の墓までに言及している。

古寺社だけではなく、横浜市内の解説もあって、中華街を初め元町、外人墓地、横浜球場など若い人にも年寄りにも楽しめる解説書となっている。

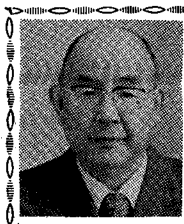
前書きにある通り、著者の歴史散歩というものは『歴史教育などもいうよりは、歴史や古美術への眼を開かせるもの』という考えが、充分生かされている。神奈川新聞のブックス・シリーズの第一冊目として出版されているが、著者の位置が判ろうというものである。かもめ文庫の共著「かながわの史話一〇〇選」（古代・中世執筆）も好評

（かなしんブック・八七〇円）

ある教師の軌跡

歌集　波涛

斉藤邦明
（昭和14年卒業）



地方出版物は全国的な出版社と異なり、地域に密接に結びついた珠玉のように気配りが感じらせられるものが多いが、この著書もその一つ。

装幀、印刷は、最近の大都会の大量出版物には不可能に近いほどの出来映えである。

歌集「海原」に続く、著者にとっては二番目の歌集であるが、昭和四十年から四十八年までの九年間数え年四五才から五十三才まで、いうところの熟年前期の一二二五首の作品が収められている。

著者の内なる思いを吐露した句の中でも、昭和四一年の酒田短期大学の許可に際しての句 あるときは田舎者無謀者との罵倒に堪へて今日の喜びに会ふ が特に読む者の胸を打つのではなかろうか…。

後記によると、この作品は、昭和四九年六月に死去した結城哀草果氏に師事した期間の作品集である記されている。大正十年生れ、昭和十九年大正大学文学部国文科卒業、昭和二一年旧制高女教諭、引き高校教諭、昭和二五年瑞相寺住職、昭和三六年酒南高校長、昭和四一年酒田短期大学副学長の経歴からいえば、短期大学創立とを同じくするが、その多忙の中での句作の旺盛さ、それに水準の高さは、驚嘆に価する。特に著者、教師、そして家庭人として活躍の心情が随処に見受けられる。

アララキ、赤光の枠を知るもまた、この枠に取らわれぬ人も一読の好著といえよう。

変則ではあるが、著者による編書「酒田 地方方言集」（林昌出版）を紹介したい。

昭和二四年、著者が教えていた天真高等学校で、生徒の言葉を豊かにしようと、生徒に方言を採集させたものの十年ぶりの再刊である。もう在京の私達には思い出のみの〃言葉〃も多く載せられてあり、故里をしのぶ著書としても望外のものである。

（林昌出版・二、五〇〇円）

株式会社　梓設計
常務取締役　北村総一（昭和一九年卒業）
品川区西五反田二―二七―三
電話　四九二―三五九一

笹目歯科医院
院長 医学博士　齋藤志朗（昭和二三年卒業）
神奈川県鎌倉市笹目町六番五号
電話（〇四六七）二二―五四〇一
自宅 神奈川県鎌倉市梶原三丁目二三番十八号
電話（〇四六七）四五―五一二四

株式会社　エイコー舎
代表取締役　阿部義弘（昭和二四年卒業）
港区南青山二―二―十五
ウィーン青山三一五号
電話　四〇二―四三五一

粉末冶金製品―
含油軸受・機械部品
東北唯一の焼結金属工場
三友特金株式会社
代表取締役　高橋重雄（昭和二四年卒業）
本社　目黒区上目黒一―三―九
電話　七一九―五四一二一
山形工場　遊佐町大字藤崎字茂り松二一―一
電話〇二三四七（五）三三一一
管野工場　遊佐町大字北目字蠟塚七六―一
電話〇二三四七（七）三三一一〇

朝日産業株式会社
村上義八郎（昭和二四年卒業）
北区田端新町一―二一―十五
高垣ビル四〇二
電話（八九三）六三〇七

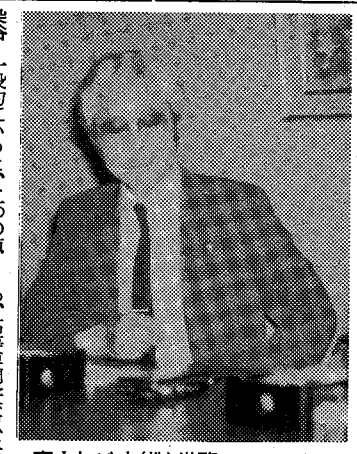
株式会社　開発ピーアール社
代表取締役　五十嵐儀勇（昭和二五年卒業）
中央区新川一―二四―十二
電話　五五二―八三八七
自宅 電話　〇四七三（五六）六三一七

富士レビオ株式会社
東証二部
常務取締役　佐々木猛（昭和二五年卒業）
電話　三四八―〇六九一
自宅 新宿区西落合四―一七―二〇
電話　九五一―八二六一

佐藤トロフィー株式会社
代表取締役　佐藤知章（昭和二五年卒業）
本社　荒川区東日暮里五―三五―一
電話　八〇七―三一九二

対談

全国的に企業誘致の運動が盛んだが、企業者の側からの視点を、ハイテクノロジーとして注目されるバイオ、エレクトロニクスの業界の第一線で活躍中の御二人に、庄内地方を中心に語ってもらった。



富士レビオ(株)常務
佐々木（旧姓大場）猛氏

富士レビオ
昭和二五年十二月設立、資本金三億六三二百万円現在東京証券取引所二部上場。医薬・血漿剤、臨床検査薬を製造販売。従業員六三二名、年商約二〇〇億円、経常二四億円の高収益会社、三年後をメドに一部上場申請の準備中。佐々木氏は酒田市本楯出身昭和二五年卒業中央大学法学部卒業後、同社の前身富士臓器製薬㈱に入社、途中一度退社したが再入社、現在常務取締役。

㈱栄電子
昭和四三年二月設立、資本金金六千万円、電子部品卸販売。従業員八十名。年商約六十億円の急躍進会社、東京証券取引所二部上場の準備中。染谷氏は遊佐町蕨岡出身、昭和三五年卒業後電気機器卸売商に就職、㈱栄電子を創業、現在代表取締役社長。

経済人座談会（第一回）

酒田 ハイテク基地の可能性をさぐる

染谷 一般的にいうと、二つの点があげられるんです。まず東京とのアクセス（交通方法）ですね。新幹線が利用出来るか、空港が近いか、ですね。

佐々木 庄内は新幹線は永久的に駄目ですか。

司会 北陸の金沢、富山の方は見込みがありますが……。まずこの十年は駄目でしょうね。ですから地元は、庄内空港の設置に大変な熱の入れ方です。

染谷 ついで二つ目は人材の問題です。大きな工業団地を計画する場合には、たとえば新潟から長岡に大学を移した位いに地元で力を入れている所には、企業も安心して進出できます。

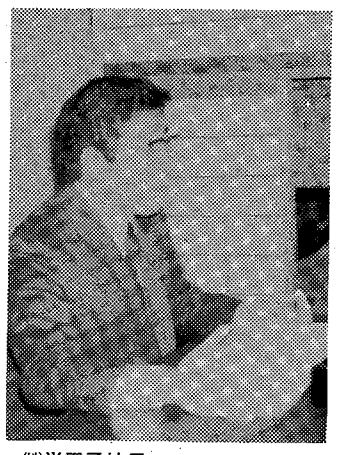
佐々木 そうですね。私のところみたいに研究に力を入れている企業ですと、どうしても地元の質の良い労働力が安定して供給して頂ないことには、成り立ちませんからね。酒田の場合にも、高等専門学校以上の理工学部があると有利ですね。仲々東京に出て来た学生は、帰りたがさせる親が増加しているけど、卒業しても地元に職がない。東京で就職して、他の土地の人と結婚したら、もう二度帰って来ない、と云っていました。

佐々木 夏に小供を連れて避暑に帰るなら楽しいけど、冬の寒さ、吹雪を考えると、生れ育った私ですら二の足を踏みますからね。

染谷 そうですね。だからどうしても地元の労働力が必要なんです。私のところに各地から企画誘致のお話が来るんですが、何年後には、労働力はこの位いは、自治体の方が責任を持つなどと条件を示めして来ます。従業員の住宅の斡旋から保育園から小学、中学校の数までバスの本数から新聞の発売数迄しえて来たところがありました。それに技術の水準の問題、自分の所で生産出来ない足りないものは近くですぐに作くってもらえるかどうか、など考慮しないと心配ですね。

司会 地元の高校の先生が云っていましたが、東京の高校に四年間行かせるから卒業したら帰って来てくれと子供に頼んで上京りませんし、良い学生は、一流企業に行ってしまう。

司会 有意義なお話を有難うございました。七月八日、新宿、料亭「鴨川」にて、司会奥山紘史氏（三五回卒業）



㈱栄電子社長
染谷英雄氏

荘内昔今

酒田と鶴岡

東京鶴翔同窓会のこと

中村信雄（東京鶴翔同窓会、常任幹事）

（一）当今庶民の茶の間の話題は、角栄氏病状の帰趨と、視聴率五〇%を越えたというNHK朝のテレビ「澪つくし」のヒロイン「かをる」の運命であろう。ドラマの舞台は千葉県銚子町とその近傍、時代は五十余年前の昭和初期、大正デモクラシーの兆しを、世界的大不況が押し流してしまった暗黒期である。その頃を荘内で思春期の中学生として過したいま七十才前後の老人連即亀城人昭和シングル卒組は、農漁村共通の一抹の哀愁を抱き乍ら往昔を懐しむ筈である。それにしても視聴率五〇%以上というのは高い。

実は私は昨年の今頃、ギックリ腰で痛む足腰を台湾製ステッキで支えながらこの九十九里浜地帯探訪に出かけた。目的は幼時一諸に暮した亀城人従兄が数年音信不通となり、その存否確認の為、外房線無人駅に降り立ったのである。

九十九里浜辺の路は遠けれど逢いに来たぞよ杖ひきて

とはその日の私の感懐である。この従兄は青壮期に大陸の国策会社で活躍したが、妻君実家所在の山口市に引揚げ、数年前独り娘の嫁ぎ先房総地域に老後を託し半は世捨人を決め込んでいるのをやっと探し出し泣き笑いの一幕となった。この房総一帯は天下周知の食糧宝庫で、私は四二年前、東京での食糧窮迫し、ゼミ旅行を企て、小湊、勝浦あたりで魚や團子類を饐腹詰め込み帰京したその翌日、再度の召集令状に接したというホロ苦い想い出を伴うのだが従兄の云うには「気候が大変佳く食べ物がおいしく、東京ブルジョアジーの保養地帯だ」とのこと。青山学院大通学中に私を保証人に任立てた彼の独り娘とその夫君は、私の探訪を殊に他言んでくれて、十八年ぶりに再会した老人二人水入らずで泣き笑いの一夜を明す場所としてはは「白い渚の家」なる簫酒たるペンションを提供してくれたのは有難かった。帰京して彼の身を案じている縁辺に「その安らかな老後の処し方」を披露した処、「今度私をも連れて行って！」という老人老婆連や続出し、本年も再度の交歓となった。

（二）処ができる。私が昨年訪れた頃は、ロスオリンピックの直前で、九十九里浜一帯は地元出身の増田明美選手声援のポスターや垂れ幕一色であったのに、当今は「澪つくし」ブームに一変した。

（三）さて、ドラマの展開が「愈吉・かをる」の挙式、披露宴と進むに際し、当時の銚子町近傍では四日四晩に渉って招待客入れ替り長夜の宴が催されていた事実をば、今どきの若い諸君には想像できるであろうか？ 当今の合理的精神からすると全く箸にも棒にも掛らぬ時間と経費の無駄費いというべきだが、斯る脚本がジェムス三木氏によって堂々と展開され、誰もこれを非難したりしない事実、アナクロニズムの再現と冷笑しない許りか、視聴率いよいよ高まる事実をば私は大変興味深く感じた。つまり、戦前の家族制度、長子相続制確立時代に新しく家族の一員に迎へた新婦をば、斯くの如く念入りに親戚故旧友人先輩、取引先に披露紹介し、花嫁の酌を以て過した慣行への郷愁がみられるからである。このことは都会農村を通じて当今澎湃たる冠婚葬祭企業システム化への反撥に基づくと視るのは私の僻目であろうか？

（四）我が国戦後資本主義高度化の著しい特色として、最も伝統的な人生の最大行事冠婚葬祭をば、独立企業の対象として営利システム化軌道にのせたことがあげられよう。その功の尤たるものは伝統に伴り「煩らわしさ」や「因習」を葬祭企業が殺ぎ落した事、その罪は伝統固有の「淳風」や「味覚」すら押し流してしまったことにある。私の界隈にお住いの日経連会長大槻文平氏は、「いまの日本人、せいたく過ぎる。冠婚葬祭なんか派手になるばかりで。暮らしを質素にしてもっと謙虚で心を豊かにすることを考へないとダメになる」と詠歎しておられる（日経六・一七夕「日本の百人」）が、私はシステム化そのものの功罪を仔細に吟味する時機にさし掛っていると想う。本月始め、私は郷里姻戚の結婚式に招かれ、羽黒街道に面した国際観光グランドエル・サンでの披露宴プログラムが東京以上の盛大華麗に終始したのに一驚、そのプロジェクトが新朗鶴南バスケット部友人連の主導に拠ると知り、嬉しくなった。というのは東京でのそれには、新朗新婦が主体か、親のデモか識別に困る場合が往々見られるからである。然し老人の感傷として、どうして自邸で行わなかったのであろうか？との疑念を抱いた。当今都会サラリーマンの住いは冠婚葬祭には不向きであるけれども、荘内の佇いは凡そ冠婚葬祭用に出来ているからである。尤もこれには、荘内魚菜の季節の旬の味を極度に愛好する老人の、グランドの献立よりも自邸前夜祭で義兄弟姉妹、甥姪廿余人が地酒くむ席に供された婆さん達（昔の女中さん方）奉仕の、鯛、海老、鰈、鰤、蕨、月山竹料理と浅漬類が口に合ったことと関係があるのだが……。

（一九八五・六・二〇）

鶴翔同窓会とは、昔の荘内中学、鶴岡中学、そして現在の鶴岡南高等学校の同窓会であり、東京鶴翔同窓会とは、所謂、東京支部のことである。勿論、関東一円に及ぶものである。設立は昭和四十六年であるから、今年で十五年目となる。

国元庄内にいる同窓生が、自分達の子供を東京にいる同窓生などの子女と婚姻の機会を得ようとしても、同窓生の消息がなかなか摑めず、住所もわからないので本当に困る、といったことも設立のきっかけのひとつであった。本部で出していた同窓会名簿は、首都圏の住居表示が激しく変っていた頃なので、東京の同窓生の役には立たなかった。何度かの設立準備会を重ねて、先ず先ずの名簿を作り得て、設立総会並びに懇親会を開催したのが、昭和四十六年の秋であった。

同窓会というものは、過去をなつかしむためだけのものではなく、昨日の自分をそこに見出し、今日の自分を再確認する、何か、こう爵勃としたものが体内に漲ってきて（私が考えるのに同窓会というものには、純化された過去のエキスのようなものがあり、それに触れるためであろうか）明日へのエネルギーとなる、といった作用があるように思われる。

同窓会・即名簿と言える位、名簿の整備は大事なことであるが、昨年、名簿委員会を発足させて、幾度かの会合を経て、ようやく最新の名簿を発行できて一息ついたところである。

同窓会の総会兼懇親会といった大体、年一回の開催は、支部である程、準備する幹事の顔ぶれが毎年同じような人であることが多く、とかくマンネリにおちいり易い。そんなこともあって、東京鶴翔同窓会では昭和五十五年度から、卒業回数十年置きの幹事年次を定め、その年の会報と総会並びに懇親会の企画、開催運営を責任を以って行って貰うことにした。

例えば、今年は七の卒業回数が幹事年次である。即ち三十七回（昭和四年卒業）、四十七回、五十七回、六十七回、七十七回の卒業生の中から各年次数名づつが選ばれて担当した。

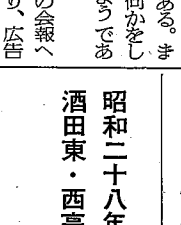
年次幹事制にしてからは、毎年良いアイデアが出るようになり、今年はどんなテーマで、どんなことをやるのだろうと楽しみに待つようになった。特に秀れた企画だったと思うのは、三の組の年次幹事のとき、母校とよく連絡をとって在校生の懸賞論文を募集したことだった。テーマは「青年の主張・荘内の風土に因んだものなど」最優秀賞一点五万円と記念品、佳作三点は賞金一万円と副賞。入選作品は荘内日報紙上に掲載し、東京鶴翔同窓会場で配布、尚審査員にも適格な人物を選定したものであった。沢山の応募があり、感動的な作文が多かった。

同窓会の目的のひとつに母校の後援を計るというのがある訳だが、こうして在校生とのコミュニケーションが生じ、また郷里の人の間に話題となったりして大へん良い結果をもたらしたものである。

その年の年次幹事になった人々は初め、貧ぢくじを引いたように思う人が多いようであるが、何回かの会合、打ち合わせを経て、その年の会報発行と総会兼懇親会が終ってみると、それはそれで大へんなつかしくなるようである。また、ささやかながら、「何かをした」という気にもなるようである。

年次幹事制にしてからの会報への広告量が大へん多くなり、広告収入も何倍かになった。これは年次幹事の同期の関係者が、十年に一度ならといって、つき合ってくれるからである。郷里の企業や店の広告が多いのは殆どそれである。数年間で名簿発行費用もリザーブできたことだった。

東京亀城会の愈々の御発展を祈念申し上げます。



株式会社 白青舎
常務取締役 松田勇（昭和二五年卒業）
中央区京橋一―一〇―一二
電話 五六七―四四〇一（小西光沢堂ビル）
自宅 〇四三―四三―九八六一

佐々木整形外科病院
院長 佐々木章（昭和二六年卒業）
青梅市師岡町三―一九―九
電話 〇四二八（二四）一一九九

日本コカ・コーラ株式会社
取締役副社長 上野明（昭和二八年卒業）
渋谷区渋谷四―六―三
電話 四〇七―六三一一

昭和二十八年卒
酒田東・西高校
東京二八会

市原地所株式会社
不動産土地建物仲介売買
千葉県知事（5）第二五七九五
代表取締役 菅原義郎（昭和二八年卒業）
千葉県市原市五所一七二六
電話 〇四三六―四一―一七九一
一七九三

医療法人 愛慈会 西佐倉病院理事長
病院長 医学博士 池田浩（昭和三三年卒業）
千葉県印旛郡印旛村岩戸
京成成田線 臼井駅 印西行バス
西佐倉病院前
電話 〇四七六（九九）〇一六一

小口内科
（旧姓大谷）
院長 小口邦子（昭和32年卒業）
杉並区成田西1―13―6
電話 03―316―8577

昭和二十九年卒
酒田東・西高校
東京ふくの会
連絡先 本間英生
電話（五八一）九二一〇四
自宅 〇四八〇（三三）四〇三七

あのこと このこと 想い出を語る

五十年振の酒田

吉田　尚（昭和三年卒業）

五十周年の集会をやるから出席するようにとの懐かしい通知を受けて、フッと五十年振りに酒田へ行って見ようと決心した。

親切な旧友の通知には、夜行で上野を発ち、翌朝酒田に着く寝台列車の時刻も記されて居た。

到着の酒田駅に中山岩男君（現亀城同窓会会長）の出迎へを受け、そのまま同君のお宅へ参上。暖い朝餉の味噌汁に数々のお料理で、中山夫人の心からのおもてなしと、同じお手製の赤いかりん酒の美味が今も忘れられない。

食後同君の邸内の広い庭に御夫妻で案内され、東京では考へられない植物の多様さ、始めて見るかりんの大木や雙葉蘭（フタバラン）の鉢に咲く珍花等に目を見張った。

鳥海山には是非登りたいと言ったら、タクシーで頂上に行けるときいて又びっくり。中学時代朝夕仰ぎ見つつ「ああ見よ、鳥海七千余尺、虚空に聳ゆる巨人の姿」と歌った校歌が思わず頭に浮んだ。

早速二人で自動車を駆り瞬時にして頂上へ。秋田と山形の両県に跨る巨人の天ぺんに立つ事が出来、アルミ工場や共同火力の見える海岸を一望にして感無量。

中学時代も山形高校時代も遂に果し得なかった登頂を果し、時の移りと歳月の長さに今更驚ろいた。齢七十にして五十年前の思いを遂げ、旧友と共に巨人の頂に立つの思いだ。

夕刻から始まるクラス会の前に一人酒田の街を歩く。当時、本間光丘翁の偉業としての砂防林に、級長の斉藤栄治君（故人）らと数人で茸（キノコ）穫りに行ったあたり、どの辺か見当もつかないまでひらけた住宅地や街や店に目を見張った。

本間さんの邸宅で、大火がとまったときくそのお邸の前を通り、懐かしの酒田中学、今は酒田東高校に辿りつく。校門のそばを流れる新井田川、こんな所に橋があったかと驚ろき乍ら、勿論五十年前の校舎がある筈もなく、馴染みのない二階建の校舎を見乍ら、忽ち校庭に出た。

途端に眼前に見はるかす懐かしの鳥海山。ああ、これだ、朝夕三年間仰ぎ見つつあこがれた麗姿。やっと中学生の自分をとりもどし、数々の思い出が、校庭に浮んできた。

夕刻、料亭でのクラス会に出席。五十年前の中学生の俤（オモカゲ）は全くなく全員が初対面と同じである。殊に私は二年の時転校して来て、四年修了で山高に入ったので、クラスメートとは三年だけのつき合いだ。

東京から馳せ参じた菅原君、白木君と私の三人を加へて昔話がはずむうち、段々少年時代の姿が出て来るのが不思議だ。自己紹介をしているうちに誰彼の思い出が浮ぶ。私は懐かしい旧友に持参した自著「これからの石炭化学」を贈呈、不足分は帰京後送附して喜ばれた。

母校にも一冊贈呈、後日校長先生から丁重な礼状を頂いて恐縮した。つきぬ一夕の歓をつくして翌早朝、後髪引かれる思いで酒田を発った。驚ろいた事に中山君が駅に見送りに来られ、雙葉蘭の鉢を頂いた。

今は我家で数鉢になっている。中山君、結城君、本間君、菅原君らに大変お世話になりました。其の他当夜集られた懐かしの旧友諸君も含めて、益々健やかならんことを祈りますと共に母校の繁栄と亀城会員の皆様のご健斗をお祈り申し上げて筆を擱きます。（新日鉄化学㈱相談役）

日記は今でも書いている

須田友三郎（昭和十三年卒業）

既に六十路も半を過ぎた今、遠く過ぎ去った十代の酒中時代を振り返って見る時、あの頃の色々な想い出が、或は遠い昔の夢のようにおぼろげに、或はまるで昨日の出来事のように鮮かに、まぶたによみがえって来ます。

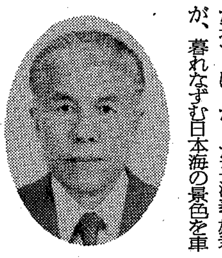
昭和八年三月、私達が酒中の門をくぐった時は、既に満洲事変が始まって居り、軍国主義と云う時代の波は私達の中学生活の中にもひしひしと押し寄せていました。肩から下げるカバンは、ズックの背嚢と変り、軟派のシンボルであったラッパズボンは一切禁止されて、通学時にはゲートルを巻いてと云う具合でありました。

又軍事教練も年毎に強化されて行き、配属将校と工藤中佐の外に佐藤中尉が加わり、伊豆先生と三人の教官で、教練の時間には随分と気合が入ったものでした。あの頃は「非常時」と云う言葉が盛んに使われ、何かと云えば「この非常時に－」と云うのが、怒られる時のきまり文句みたいなものでした。

とは云い乍ら、どこかまだ余裕のようなものがあり、毎年学年毎に修学旅行が行われ、特に四年生の時は関西旅行と云う事で、何ケ月も前から待ちこがれていたものでした。旅は先づ京都から始まり、嵐山、清水寺、銀閣寺等を廻って遠く平安の昔をしのび、次いで大阪城の巨大な石垣に秀吉の力を思い、奈良では猿沢の池をめぐり、若草山の緑をふんで、古の歌人の心にひたったものでした。

それから伊勢路を辿り、五十鈴川の清流に身も心も清めた後、大神宮にお参りし、更に東海道を東に進んで江の島、鎌倉を廻り、東京見物を最後にして終ったあの旅の楽しかった事は、今でも忘れる事が出来ません。

この旅でもう一つの思い出は、校長先生の息子と云う事で、どこか近づくにくかった三浦義雄君が、暮れなずむ日本海の景色を車窓に見乍ら、「谷間のともし灯」「コロラドの月」等、当時中学生としては余り知らなかった素張らしい歌を聞かせてくれた事でした。この事で、それまでは知らなかった彼の柔く温い人間味にふれたような気がして、急に親しみを感じた事を覚えて居ります。



そしてその後私の愛唱歌となったこれ等の歌を口ずさむ度に、彼の事が思い出されてなりません。

校歌の冒頭に詠われている「嗚呼見よ鳥海七千余尺――」の鳥海山に始めて登ったのは、三年生の夏休の時でした。山岳部の斉藤、粕谷両先生の引率で遊佐の駅から歩き出し、重いリュックを背負い互に励まし合い乍ら河原宿に着いたのは、夕やみ迫る午後の五時頃でした。

見上げればすぐ目の前に雪渓が広がり、そこから流れて来る手のちぎれるように冷い川の水の美味しかったこと！。そして夕食後キャンプファイヤーをかこんで、山を讃え、青春を謳歌して声を限りに歌ったあの感激！。恐らく生涯忘れる事が出来ないと思います。四年生の夏休には、羽黒山から月山をかけ湯殿山に下る、いわゆる出羽三山をめぐり、ますます山への憧憬と信仰を深めたものでした。

酒中時代の忘れられない事の一つに、修養日記があります。毎日その日の出来事や、特に感じた事等を書いて、一週間に一度担任の先生に見て頂く仕組みでした。それは自分の生活の反省でもあり、又先生との心の交流の場でもありました。特に豊田先生の担任の時は、提出する度に先生からそれに対する批評や感想を書いて頂き、それが楽しみで一生懸命日記を書いた事を覚えて居ります。あれから早や五十年、然し日記を書く事だけは今だに続けられて、私の大事な日課の一つになって居ります。

これが、若い時の躾（しつけ）が後年いかに、その人の人生に影響を与えるかの例と皆に話して居ります。

卒業後は戦争と云う激動の時代を生き抜いて、今日尚企業の第一線に立って働いている事が出来るのも、酒中時代の諸先生方の御薫陶の賜と深く感謝して居ります。母校の一層の発展を心から祈って止みません。（吉池㈱役員）

なつかしき汽車通学

佐々木勘次郎（昭和八年卒業）

わたしは秋田県象潟に生まれたものです。大人になってから自分の郷里が芭蕉の「おくのほそ道」にゆかりのある町であることを知ったものの、小学生の頃は蚶満寺に「象潟や雨に西施がねぶの花」の句碑があることさえ気づかなかった。

その象潟から昭和三年、あこがれの酒中を受けた合格通知を貰ったときの喜びは大きかった。始めて定期券なるものを使って酒田まで一時間の旅ができるのもまた嬉しかった。小砂川から吹浦までの海岸のすばらしい美しさや吹浦を過ぎてから車窓の両側に広がる庄内平野の豊かな眺めに感激した。

あの当時わたしの町から酒中に行っていた生徒には、二、三年上級で、白木、須田穣、大沼八十二の三君がいた。先輩はありがたいもので、往復の車中や学校への道すがらいろいろのことを教えてくれた。「英語で、ぼくは少年だといってみれ」といわれて、「アイ　アム　イズ　ア　ボーイ」といったところ三人に大笑いされたことも昨日のような気がする。月に一、二度、帰りの車中でコンパをやったことも楽しかった。コンパといっても、吹浦を出たころからお菓子をつまんで、たべるだけのことだが、その菓子代を出した記憶がない。先輩におんぶしていたのであろうか。

朝の汽車は六時一分の新津行きである。まだ薄暗い五時すぎに起き、ご飯を食べて駅に駆けつけるのも、毎日となればつらいと思うこともあった。ことに冬、道路に雪が一ぱい積もっていたり、豪雪のため、汽車が遅れたり不通になるときは本当に弱った。しかし、一番たいへんなのは五年間にわたって弁当を作っては送り出す家の者だったであろう。

下校時に大雪になったときなどは、本町の西田薬局さんによく泊めて頂いた。気さくで立派なご主人、優しくさっぱりしたご気性の奥さま、明るくのびのびしたお子さま方のご家庭の雰囲気にふれさせて頂きこれこそ理想的なホームと思ったものである。

中学校では、多くの先生方からいろいろと栄養を補給されて、あの少年期を成長してきたと思う。

斉藤重蔵先生は卒業学年のときの担任で随分お世話になったのに生意気なことを申し上げたりし、今でも顔赤らむ思いがする。

国語の三平先生は昼食後よく講話をされた。生徒たちは静かに聴いていたように思う。わたしは一度髪のことで注意を受けた。

ウマというあだなの内田先生は英語の授業も一生懸命だったし、生活指導も厳しかった。

武内先生には剣道を教わったがこちらの素質と怠慢で上達せず。

三木先生の絵の時間はうまくゆかなかったが、用器画はまあまあ。

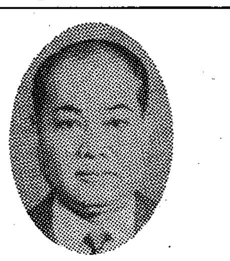
堀野先生の化学は分りにくかったが、話は面白く、楽しかった。

安達先生の物理は、こちらの理解力がゼロなのに点は頂けた。

例えば在学中、普通選挙法によるわが国最初の総選挙（昭三）、世界大恐慌と不景気襲来（昭四）、満洲事変（昭六）、五・一五事件（昭七）とたいへんなことがありこれが準戦時体制へと続いてゆくのであるが、われわれは呑気なものであった。いま、戦死、病死された同期生諸君のお名前を名簿上で見、本当に心がいたむ。（芝浦工大附属柏高校長）

"真空管"に出会って

土屋　剛（昭和十八年卒業）



私は米沢の東部尋常小学校を昭和十三年三月に卒業したわけですが、その時オヤジが酒田へ転勤する事になりましたので、急拠、米沢興譲館中学から酒田中学受験へと変更して入学しました。このような背景から、酒田に来ますと、見るもの聞くものすべてが目新しく、かつ、雪国の城下町米沢と違って町全体が非常に明るく感じられ、本当に伸び伸びと楽しく過ごせた一年生時代でした。

ただ、入学早々に放課後は毎日のように応援歌の練習が校庭の片隅で行なわれ、そこでは上級生が我々を取り囲み、ちょっと間違えたり元気がなかったりすると、上級生の竹刀が我々に向って飛びかかってくるという苦い経験は今でも忘れられません。

昭和十五年、三年生になりますと、日本軍が仏印に進駐、日独伊三国同盟が締結され、世間は除々に騒がしくなってきましたが、中学の方は、未だ未だ平和そのものでありました。この年、始めて理科なるものを教わりましたが、担当の先生が物理学校を卒業されてすぐ当校に赴任されたせいか、非常にういういしく感じられました。この授業で始めて出会った"真空管"なるものにすっかり魅せられ、これが我が人生をして、電子産業の分野へと進ませた下地が芽生えた様に感じられます。つまり中学三年、十五才になると、まさしく己が人生の進路を決定づける最初の節目でもあった様な気がします。

あけて昭和十六年、四年生になりますと、世間はますます慌しくなり、四月に日ソ中立条約が締結され、六月に独ソ開戦、十月には東条内閣が成立すると遂に、十二月八日、早朝、特別攻撃隊が真珠湾を強襲、ここに太平洋戦争がぼっ発したのであります。この日、酒田は朝からみぞれで、それはそれは肌寒く暗い一日でした。

学校でも全員が緊張した面持で、その日は校長の訓話で始まり、その後の授業も開戦の話題に終始したように記憶しております。一方、駅頭では毎日のように出征軍人を見送ったり、戦死された英霊をお迎えしたりの行事が繰り返されていました。この他、出征軍人の農家に対し、春は田植えに、秋は刈り取りにと勤労奉仕作業に出掛け、農家特製のあられを頬張ったりした事など覚えています。

こんな戦争の真最中でも進学のための補習授業は、夏休み期間中のほか、毎早朝にもしっかりとやって貰いました。特に、数学の黒田先生（あだなはマルカン）には、厳しさの中にもユーモアあふれた授業、そして受験英語にかけては天下一品の船越先生の授業など、今でも強烈な印象が残っております。

何れにしましても、十九回の卒業生一同、今年は、つつがなく還暦を迎える事が出来るのも、これひとえに酒田中学五年間に亘る、しっかりしたバックボーンがあったらばこそと今更ながら痛感される次第であります。（田中電気㈱技師長）

（株）極東窒化研究所　取締役社長　小野尚太郎（昭和八年卒業）　神奈川県秦野市三屋四二二　電話〇四六三（七五）二二二一

芝浦工大柏高等学校　校長　佐々木勘次郎（昭和八年卒業）　千葉県佐倉市新臼井田二一八　電話〇四三四（八九）五八四〇

西荻中央病院　院長　村上富吉（昭和九年卒業）　病院　杉並区西荻北二－一五－五　電話三九六－三一八一（代）　自宅　杉並区高井戸西二－一六－三九　電話三三三－九九六六

加藤外科医院　院長　加藤信吾（昭和二年卒業）　品川区大井一－四二－一〇　電話七七一－五一六八

木村病院　院長　木村謙一（昭和一五年卒業）　板橋区中丸町二二－一三　電話九五九－三一二一

真空器械工業株式会社　専務取締役　成田敏雄（昭和一九年卒業）　品川区南大井三－二－一六　電話七六二－七八一一

株式会社アメリカ屋靴店　専務取締役　伊藤憲三（昭和二〇年卒業）　会社　大田区平和島六－一－一　東京流通センタービル　電話七六七－五五一一　自宅　世田谷区成城四－二〇－八　電話四八四－一四八三

日動火災保険株式会社　三鷹代理店　代表　杉沢勝喜（昭和二〇年卒業）　三鷹市下連雀六－八－五一　電話〇四二二－四九－七五三二

東清株式会社　代表取締役　金湖東吉（昭和二五年卒業）　大田区大森北一－五－一　電話七六一－七七八八

関東学院女子短期大学教授　マサカ小児科医院院長　医学博士　真坂孝二（昭和二五年卒業）　診療所　横浜市戸塚区品濃町五三三　自宅　横浜市戸塚区川上町五六〇　電話〇四五（八二三）七八六六

西村法律事務所　弁護士　西村三瀦（昭和二六年卒業）　江東区大島六－一－六－三六七　電話六八四－六一三一

株式会社新（あたらし）鉄筋工業所　常務取締役　金山義雄（昭和二八年卒業）　会社　川崎市麻生区片平五－六－九　電話〇四四（九八八）五六四〇　自宅　川崎市麻生区百合丘三－三一－一〇〇　電話〇四四（九六六）二四四八

株式会社博報堂　PRディレクター　小松靖夫（昭和二八年卒業）　神奈川県海老名市中新田七二二－一　海老名コーポラスA－310　電話〇四六二－三三－六〇七〇

アルミサッシ業　三高工業株式会社　代表取締役　鈴木義岑（昭和三一年卒業）　府中市新町一－七－一八　電話〇四二三－六六－八五四一（代）

兄弟自動車ボディ修理工場　代表取締役　渡辺武（昭和三一年卒業）　神奈川県大和市六－六－七　電話〇四六二（六一）八六一五

屋内・外電設工事全般　大功電設工業有限会社　代表取締役　後藤功記（昭和三五年卒業）　三鷹市大沢二－一九－二　電話〇四二二（三二）三六三二

イラストレーター　阿部明（昭和四二年卒業）　東村山市富士見町四－一五－三六　電話〇四二三－九五－七一四二

元木徹法律事務所　弁護士　元木徹（昭和四二年卒業）　東京都中央区銀座一－二〇－一五　前田・山陽ビル五階　電話〇三－五六四－二九四八（代）

あのこと このこと 想い出を語る

最上級生を二年やる

阿部　義弘（昭和二四年卒業）

戦後四十年。すっかり風化したといわれる戦争体験も、私は夏になると決って、鮮烈に蘇ってくる。

敗戦の年。中学三年になった私達は、南平田にあった帝国石油㈱庄内鉱場に石油発掘のための櫓作りのため動員された。

戦後石油が出たという話は聞いたが、そのころまでは堀っても堀っても出るのは泥水ばかりであった。

八月のはじめ昼近く空襲警報が出ても、爆撃目標になることなど今までの例で考えても見なかったので十米はある櫓の上で作業を続けていた。

ところが、酒田の方でピカピカ光るようなものが見えた。それがグラマンが、酒田港を爆撃していたのだった。四年間の大平洋戦争を通じての唯一度という、戦闘との接点であった。

後で、報道管制の網をぬって来た噂では、そう当数の爆死者が出たということを聞いた。

「酒田が空襲を受けるようになったら戦争は敗ける」と巷間に伝った、防空体制に絶対の自信を持って、敗戦を信じない、裏返しのセオリー通り、私から見れば、あっけなく敗戦となった。

敗戦となって予科練など軍隊に入った連中が帰って来ても、すぐに授業は初まらず、九月に入って農家に手伝い行ったことを覚えている。そして作業が終るとなぜか「どぶろく」（密造酒）が出て来た。今考えてみれば、十四、五才の子供に酒の味が判る筈がないと思うのだが、その後も、同級生の居た余目町の地酒「倭桜」（やまとさくら）の蔵元に行き、飲ませてもらった。最近、胃潰瘍の手術をしたが、あるいは、早くして酒を嗜んだのが原因かも知れない。

余目の町は、いまでも、酒田の高校に行くものと、鶴岡のそれに分れているそうだが、私達の時代も、余目小学校の卒業生は上り通学生と下りの通学生が半々であった。余目の駅では、酒商、酒中、鶴岡、庄内農業それに各女学校の通学者が集合する場所が決まっていた。

私達は交番のうしろが、集合場所であった。そして列車の一番前に乗るのがセオリーであった。このグループの中で異色だったのは、同窓生全体で数少い、第一高等学校―東大という超エリートコースを歩いた現朝日新聞、編集委員の工藤宜（よろし）君だった。常に手に英語の辞書を持ちそのページ全部を暗記すると破って喰べてしまうという方法を取っていた。その努力が実って見事合格した。

夏になれば、甲子園の高校野球だが、私達の時代には、二、三県に一校しか、甲子園には行けなかったので、甲子園は夢のまた夢であった。それでも県大会では、良いところまで行ったことを記憶している。野球はダメだったが、陸上競技は意外と強いのが揃って居て、阿部幹之君などは東北大会に出場、三段飛びで十三米二十。次の年に十三米三十を記録二連覇をなしとげ、一躍全校の人気者となったことを思い出す。

彼はその後も、名古屋瑞穂競技場で開かれた第一回インターハイでは六位に入賞した。

そのころ、同年生の中で演芸会がよく開かれた。教室は、職員室から、最も遠い理科の階段教室が使われた。農家の者が持って来た薩摩芋を二本づつ貰って、得意の喉を競いあったが、軍歌、民謡の中で、誰かが歌った「リンゴの歌」を初めて聞いた時、ああこれが本当の私達の歌なんだなとしみじみと思った。

戦中は、田植、草取り、稲刈りなど農繁期には農家への勤労奉仕。初めのうちは、毎日通っていたが、四、五日その家に泊り込み、早朝から、夜遅くまで働いた。また農家に行かない時には、大浜地区の工場、港湾荷役にまで駆り出された。

戦後は、昨日まで使っていた教科書がGHQの命令で今でいう社会科系のテキストを中心に使用中止となり、どんなもので授業を授けたものだったか……、この方はあまり思い出せない、級友とよく話すのだが、「勉強したという記憶がない」と良く話す。

私自身も教職を志したのだが、半ばにして、進路変更してしまったので、あまり云いたくないのだが、同級生に教職者が多い。ざっと卒業名簿を見ただけで、東北大学二名京都大学、早大の教授を初め高校々長など、数多くいる。

在校時代の先生方の人格を見てその生き方に共鳴したために、先職としたのであろうか……、それともあれで生きれるなら、気楽な稼業と割り切ったのか、亀城会の年度別に見たら率とすれば、一番多いのではなかろうか……。

また、第二回生を別として私達の卒業回生の特異なことは、最上級生を二年間もやったことである。旧制中学五年の最上級生と、次の年には、新制高校三年生の最上級生である。先生が敗戦のショックで指導力を失っていたこともあって、上から押えられずに、伸び伸びと高校生活を過せたことも、私達の回の大きな特長であった。

（㈱エイコー舎代表取締役社長）

東西両校舎に別れて

本間　英生（昭和二九年卒業）

古いものほど懐かしいものはない。凸凹の廊下と、その上のよく試験の成績が名前と共に張紙された白い壁。階段教室や階段下の温飯器……。

私共が入学したのは敗戦後六年目の昭和二十六年のことだから、物資豊かなわけはなく、一年生時代に通った西校舎で撮った記念写真を見ても、男子は高足駄の素足が並んでいる。腰には白い手拭だったろうか。もっとも、女子は、と見ると、きちんと靴を履いているから、当時の質実剛健の気風の象徴でもあったのだろう。

私共は、一年生は西校舎、二年生からは東、西校舎に別れて通学した変り種の新制高校生だったが、庄内一の古い伝統を誇る女学校に、男子生徒が雪崩れ込んだわけで、いろいろな面で先生方にご迷惑をおかけしたらしい。今でも同期会の東京ふくの会にご出席される小松幸子先生や木村菊野先生など恩師のお話によると、私共の〝蛮行〟の数々は相当のものだったとか。しかしそれも時の流れに免じてお許しを頂けるほど、昔のこととなってしまった。

さて、当時の自治組織に生徒会というのがあり、私も一、二度その役員をおおせつかった。二年か三年の時に佐藤善吉先生に引率されて、山形東高や仙台一高など先進諸高校の視察旅行があった。その内容等は余り記憶にないけれども、確か仙台三越での昼食だったか、大きな海老の尻尾がはみ出た天丼のうまかったこと、世の中にこんなに美味しいものがあるのかと、今でも記憶に残る私の食文化史である。

話は多少ずれるが、善吉先生はじめ諸先生には、交通公社へ入社後、修学旅行のお取り扱いを通じて大変お世話になった。私共の時代は中止された修学旅行はその後復活し、酒中時代からの伝統か、毎年、北海道をその目的地に選び行なわれた。クラーク博士の北大や富士製鉄の見学など、雄大な北海道旅行を、現地在住の諸先輩の温かいご援助も得ながら、永年お世話できたことを今でも感謝し、懐しんでいる次第である。

後輩の旅行団がやって来る、となると、札幌や室蘭や函館に在住のOBの方々は、つきっきりでお世話をして下さり、植物園では、差し入れのアイスクリームをいただきながら北海道のお話を聞いたものである。

全日制のほかに定時制の修学旅行も扱わせていただき、亡き橋先生ほか諸先生にお引き立てをいただいた。打ち合せにお邪魔しては夕食の給食をご馳走になったり、関西旅行共々懐しい思い出である。

「校庭から見た鳥海山」　阿部　明（昭和四二年卒業）

桜の季節には思い出す

飯野　紘（昭和三四年卒業）

高校時代をふりかえれば、ひたすら夢を見ることができた年頃だったと考えます。

一年の時担任の渡部信次郎先生が、クラス全員を前に「眠くとも布団に入って三〇分間好きな本を読め、生涯大量の本を読める」と啓示してくれましたが、単純に計算しても二千冊以上の本が読める勘定となります。

今も仕事以外の本を読んでいますが、当時は文学哲学・自然科学など興味をそそられる本をひたすら読み進んだ気がします。

この為か、雑学的知識と消化能力だけは身についたらしく、四〇台中途でも色々な事柄に興味を持って接することができると自分勝手に思い込んでいます。

そんな中で、今でもコンプレックスを持ったまま悪戦苦闘しているのが「英語」です。

忘れもしない一年生の時の最初の英語の時間、出席簿一番に名前があった小生を起立させ、黒板に〝æ〟の発音記号を書いて百回発音を繰り返せと指示した英語の先生、その真意も判らないわけでもなかったが、今でも思い出す何とも言えない腹立たしさ――〝ブ〟〝ブ〟言っているうちあごが疲れて来て〝アホ〟〝アホ〟に変る思いがしたのを今も苦々しく思い出します。

そのためだけではありませんが、妙に英語とはウマが合わず、時間をかけて学習する割には成績も上がらず、二、三年の担任だった佐藤善吉先生には、顔を合わせる毎に英語を勉強しろ勉強しろと激励され自分も何とかしたいと取り組んでみたが、変に構えてしまいちっとも成果が上がらないで終ってしまいました。

あれから三〇年たち、今でも「アホ」「アホ」の苦い男と共にやりたいという切なる願望を持って英語に接しています。

高校生活と言っても、勉強にしろクラブ活動にしろ特にこれと言った想い出もなく過したため、こみ上げる懐しさはありませんが、同級生の松本良紀君、芳賀芳雄君、本多君や中学から友達だった桜井信晴君などの消息を知りたいと思っております。

大火の後、酒田の町並が変り町名が変り、年に一度位の帰省では何となく溶け込めなくなって来ており、故郷も遠くなって来たのかと感じられるこの頃ですが、鳥海山・最上川・砂丘・日本海は青春を思い起させる風景で帰省の度に懐しく眺め続けております。

ただ理由はないのですが、母校の校舎は卒業以来一度も見たことがありません。

多分、学在時代の古い校舎はないだろうと思いますが、三年の時数学部のクラブ活動で新しい体育館を測量し模型を作った関係か今でも正面から体育館方向にかけての校舎の位置や様子を思い出します。

特にあの古く大きな桜の下を新入生として胸を弾ませて登校した時の気持は、今でも桜の季節になると思い起す時があります。

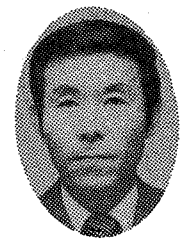
東京にいると、季節感が全くなくなり、花見など思いもよらなくなりました。淋しいことです…。

（税理士、飯野税務事務所長）

蹴球部

長谷部　和良（昭和三四年卒業）

故郷はなつかしきかな。いつも変りなく、四季の姿を雄大に見せてくれる鳥海の山にむかいて言う事なし。田んぼの小川のどじょうやふなやケンゴロウ等が、今やいなくなった。どこに行ってしまったのだろうか……。時代が変ってしまったよなんていやな言葉だね。坊主頭にテカテカのいっちょうらの（学生服）がくらんに足駄をはき、帽子には靴ずみをぬって、どうにかかっこうつけて小さくきどってはいたが、残念ながら影はうすかったに違いない。



あれから数十年、今の俺は何だろう。現在住いは神奈川県は相模原市、朝六時五十分には家を出る。ぎゅうぎゅうづめの電車に乗り約一時間半にて会社に着く。所は北青山一丁目、東宮御所の真前だ。デスクの電話のベルと共に一日のスタートが始まる。今までに何度も転びながらもどうにか頑張っております。さしづめ中年のおにいさんという所が昨今の近況です。

時は正に15才酒田東高校に入学した。中学の頃サッカー（当時は蹴球部）をやっていた関係で、なんとなく三年間サッカーをやるはめになってしまったが、今の私にとってみればすばらしい思い出となった。振り返れば無我夢中でやったとは言えないが、死にものぐるいでやっておれば日本の大スターになっていたかも知れないよね？ねばりとがんばりってどこかで良く聞く言葉だよね。

さて、サッカー部での三年間良き先輩仲間に恵まれ、想い出もたくさんあります。サッカーパンツの下には越中褌、ストッキング、ユニホームは、一週間洗う事もなく臭いのするままのものを着用し、あげくのはてにつかれて風呂にも入らず体の一部がかゆくなる事もしばしばあり、また合宿が始まる。今はきれいになった校舎だが、当時は木造校舎で二階を使用させていただいた。

月夜の晩などお月様を相手にゆるんだ蛇口が何本も放水され、お月様には悪い事をしてしまった。遠き日の話故時効にてごかんべんいただきたい。しかも我々サッカー部も卒業まで県大会で優勝こそ一度もなかったが語ればいろんな思い出は数限りない。

額にしわを寄せ鳥海山、田んぼグランド、うどがわら、両羽橋、隊を作りかけ声かけながらそれらの光景を無視して走った時代に万才しよう。学校を卒業してしまうとほとんど会う機会もなくなるが、幸にして今でも変る事なくサッカー部の連中とは続いております。少くとも10代の青春に良い財産と経験をさせてもらったと感謝しております。またクラスの友よ皆などうしているか。出来るものなら昔のよしみで一献いきたいものですね。

最後に皆々様の御健康をお祈りし、過ぎた日の事をタイムトンネルをくぐってもう一度思い出してみました。

（日本ゴールドボンド）

伝統の旨さ
ふるさとの味

酒王
初孫

初孫　東京専売店
酒類販賣　花山
台東区台東2丁目27番9号（毛塚ビル）壱階
電話03(836)0805

モンローとケネディ

後藤吉修（昭和三九年卒業）

昭和三六年四月から昭和三九年三月まで、この三年間が私の酒東生としての生活であった。

私の酒東生生活は、運動部に籍を置いた訳でもなく、特定の事に熱中した訳でもなく、極めて普通（？）の高校生活であったが、その中でも、今、振り返ると、いくつかの想い出が浮んでくる。

学校行事に直結した想い出としては、二年の時の北海道修学旅行、また、三年での最後のクラス対抗となった柔道大会、それに、運動会、文化祭などなど……。

しかし、それ以上に、あの三年間で強烈な想い出として残っているのが、昭和三七年八月のマリリン・モンローの死と、昭和三八年一一月に起ったケネディ大統領暗殺事件である。

マリリン・モンローの死は、丁度、楽しかった北海道修学旅行の最中であり、帰って来て、その死を知った訳であるが、その時のショックを今もって鮮明に想い出す次第である。

別段、熱心な映画ファンでもなかったが、高校に入ってからいろいろな映画を見始め、土曜日の午後などに結構「グリーンハウス」に出かけた様な気がする。

「ローマの休日」のオードリー・ヘップバーンや「北京の五五日」のエバ・ガードナー、また、エリザベス・テーラーやナタリー・ウッドなど記憶に深い、名・美人女優が多く、いろいろな女優に、胸をときめかせたものだが、何といっても最大の感激は、「帰らざる河」でのマリリン・モンローとの出会いであった。

あの美しさ・優しさ・妖しさをたたえた身体と、あのときの歌は、今、あらためて思い出しても他のどんな名女優にも代え難いものがある。

また、ケネディ大統領の死は、私が高校三年であった昭和三八年一一月二三日の朝であったと記憶している。

丁度、テレビの衛星中継のスタートで、第一号ニュースがこの事件であった。

この時期は、翌春の大学受験を控え、いわゆる人並の受験勉強に明け暮れていた頃で、休日の朝に、寝坊して起きてきたら、このニュースであった。

アメリカの第三五代大統領として華々しくデビューし、逞ましさとスマートさを身につけた若きリーダーは、アメリカのみならず、日本の女性にも人気が高く、私自身も少なからず、憧れを持っていた。

私にとって、この二つの事件が、修学旅行と受験勉強という高校生活での大きな記録と、重ね合って起ったことが、今もって、二つを結びつけて想い出す所以なのかも知れない。

また、今の私に戻ってみると、あの印象深い二人の死が、私を、今の仕事である生命保険会社に勤めさせた、と考えるのは、いささか強引なこじつけと言われようか……。

しかし、当時のケネディの齢に近づきつつある今でも、モンローの夢を追いつつ、最近では、モンローの再来といわれているアメリカの歌手、マドンナに注目している今日この頃である。

（第百生命経営数理室課長）

フォークダンス闘争

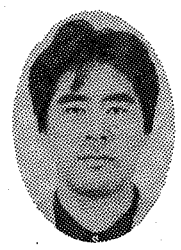
門崎敬一（昭和四四年卒業）

私が酒東で高校生活を送った1966年から68年までの時期は、全国で大学闘争、全共闘運動が盛んなころだった。東京あたりでは、高校の学園紛争もあったらしいが、酒田はいたってのんびりしたものだった。

しかし、世の中の〝熱い季節〟にまったく無縁であったかというと、そういうわけでもない。でく少数であったとはいえ、「朝日ジャーナル派」と「岩波新書派」というのがあって、学生ズボンの尻ポケットにどちらかをつっこんで、その〝意識〟を誇示したりもしていた。ベトナム反戦バッジをべ平連からとりよせて、学生服につけているやつもひとりいた。

こんな時期に、私は生徒会の執行委員長を務めたことがある。たしか、2年生のときだと思う。立候補演説では「生徒に自治権を！」とブチあげたのだが、まあ、朝日ジャーナルか、三省堂発行のタブロイド新聞「学生通信」に触発されて考えついたものだったろう。からくも当選した。そして、いくつかの自治権獲得闘争をやったのだ。

「フォークダンスを解禁せよ！」これがなぜ、自治権獲得闘争なのか……。当時はきっと「封建的な生徒規則を打破せよ」などといった理屈がついていたのだと思う。とにかく、署名を集め、校内放送で呼びかけ、生徒大会を開き、先生たちに談判した（〝団交〟などというものではなかった）。そのとき副執行委員を務めていた佐藤卓君（小学校以来の親友）は、当初、私をしょうもないことをやるヤツだなという目で見ていたが、職員会議がなかなかウンといわないことにしだいに腹を立て、「解禁せよ！」派に転じていった。すったもんだあってフォークダンスは解禁された。そして、生徒会主催の盛大なフォークダンス集会が体育館で開かれた。



東京・新宿駅西口広場では、反戦フォーク集会がゲリラ的に開かれていた時期である。

どういうわけか、私はそのフォークダンスの輪に加わっていない。そのころ好意を寄せていた女の子が、野球部の部長と踊っていたシーンが、いまでも目に浮かぶ。

このフォークダンス闘争の顛末を、大学の仲間や会社の同僚に話をすると、彼らはよく大笑いをした。もちろん、それは馬鹿にした笑いではない。牧歌的で純情な東北の高校生たちの〝青い山脈〟をちょっぴり羨しく思っているのだろう、と私は理解してきた。酒東を卒業後、東京にやってきて、〝熱い季節〟の去った大学キャンパスに見たものは、学生たちの凄惨な闘争だった。

あの3年間のことを思い起こすと、さまざまなエピソードが点滅するが、生真面目で、どこか滑稽なフォークダンス闘争が懐しい。闘争の合い間には、私と同様に絵画部員だった小林繁和君や文芸部の相蘇清太郎君たち、絵画教室の窓辺に並んで、芸術はどうの、文学はどうのとのんびり話をしていた。スイカを喰い、その種をペッペと窓の外にはきだしながら……。今でもあの時のことが彷彿と目に浮かぶ。

（平凡社雑誌「Q A」編集長）

「変化」を想う

和嶋茂樹（昭和四九年卒業）

十年ひと昔という言葉があるが、卒業以来もう十二年目にさしかかっている。当時の私は、昼夜となくクラブ活動に勤しみ勉学にも励み、毎日を有意義に過していたつもりである。

あとで知ったことだが、我々の三年間は国内も世界も、政治的にも経済的にもひとつの変革期であり転機であったようだ。母校の学舎も例外ではない。現在の姿をあらわしたのは、我々と同時期の昭和46年からの三年間（新校舎の完成は昭和50年に待たれるが）であったから、我が同輩ほど「変遷」を知る輩はいないのではないか。

『体育館』はその頃、47インターハイに供することもあって、47年に完成されたものだし、『新校舎』の着工は、昭和48年頃だったと記憶する。そう、当時、『柔道場』と呼んでいた体育館は今はもうない。先輩諸兄が汗を流した『床』で『たたみ』で我々も汗を流したものだ。

東高の三年間はとても濃い。先ほど「十年ひと昔」と言ったが、この三年間でひと時代を経験したような気分である。我々を一つの区切りにして、先輩を「おとうさん」、後輩をまだまだ「学生」とでも呼んでしまいたくなる。

さて、急に話題が変わるが、先日都内のある百貨店で「山形県の観光と物産展」が催された。私もぶらっと出向いてみたが、ウィークデーにもかかわらず大変な人集りで、人の頭の間から手を伸ばしては、背のびして口上を聴いたものだ。テナントは五、六〇店はあったように思う。うれしいことにあるコーナーでは観光案内もやっている。

――こんなことを書いているが筆の無駄ではない。私達昭和30年生、そして30歳はまだまだ郷里の「変化」を強く望んでいる世代である。

母校よ、酒田よ、山形よ、内なる変化と外なる変化の多きことを求めている。そして、我々は明日にでも「変化」を造る世代へと脱皮できる。そしてそのうち、何十年でやっとその変化をなつかしむ世代となろう。「変化」という言葉を「発展」という言葉に言い替えたほうが良いだろう。

東京という様々な顔をした空間の中で生活している皆様の交流の場として「東京亀城会」があり、その中で参画させていただくことを本当に喜ばしく思います。そして、私共の世代にも「酒田はこんな変ったんだ」という自覚をさせてくださるよう在郷の先輩の皆様にお願いする次第です。

（野村コンピュータシステム㈱）

五十周年記念クラス会

昭和十年卒業生

昭和十年酒田中学第十一回卒業生は今年五十周年を迎えるに当って、酒田を中心とした庄内在住同級生の幹事を、東京を中心とした関東在住同級生の幹事が、昨年の夫々の地域のクラス会での提案を話し合い、検討の結果、昭和六十年六月一日（土）に湯野浜に於いて開催が決まった。会場については西村彦也君の御好意により、同君の会社の寮の涼風荘の提供を受ける事になった。

今年四月八日、庄内地区幹事稲泉、大沼両名により、案内状が全国の生き残りの同級生の中消息の判っている者六十五名に配られた。

六月一日（土）当日は天候に恵まれ定刻五時迄には申込者三十七名（夫人同伴二名）全員が全国から三々五々集った。

五時半全員写真撮影後、物故者に対する黙禱、稲泉幹事の挨拶、引き続き当日最遠方（神戸）から出席の斉藤安正君の音頭で乾杯、

卒業後五十年振りで顔の合わす者が多く、胸の名札を見て、ああ君か、で話が始まった。

同郷なのでお互に親戚同志の者も多く、其の後の消息のやりとり、近所の知人の其の後等、酒は飲むが料理には手がつかない有様、

最後に酒中の校歌を斉唱した時には目に涙をためている者も見受けられた。

寮の従業員に慰いと、九時には解散したが、一階ロビーで、又は夫々の部屋に、四名、五名と集って、名残り尽きぬ話題を肴に酒を汲み交し、寝に付いたのは十二時を大分廻ってからであった。

（乙坂進氏報告）

恩師ご対面に感激　山麓会（三六回）

―懇談する佐々木先生（左）と佐藤先生―

五月も最後に近い日に、我等酒田東高校三六回卒業生の山麓会首都圏支部の定例第四回目のパーティーを、都心地の某処で開催した。

特に今回は故郷より我等の恩師三名（現在校長先生）佐々木金三先生、佐藤善一先生、芦野茂喜先生と東京亀城会より阿部鋏一事務局長のご臨席を頂いての総数三十二名の大パーティーとなったのである。

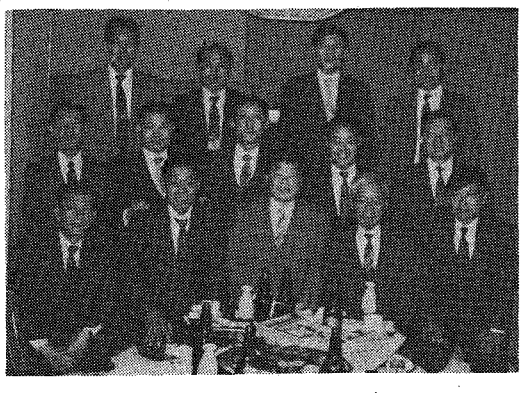
卒業以来、恩師と初対面の顔と顔があり、飲む、喰うよりもかたり合う方にもっぱらだった。でも先生達は良く我等の事を二十余数年も過ぎても色々と覚えておる事に、感心し、我等生徒はやはりいつまでも師弟の絆を大切にしたいと心あらたにさせられた事も真実である。

想い出多い校歌をうたい、散会となる時は又来年も会おうの言葉が行き交い、楽しい一夜をすごした。

（斎藤昭一氏報告）

会長の祝賀会を兼て

東京消防庁亀城会



斎藤（豊）、佐藤、鎌田、堀、富樫、後藤、渡部、橋井、相馬、佐藤（修）、北本、佐藤（英）、本部事務局、同

職域同窓会としては、最も積極的に活躍し、団結力が強いといわれている東京消防庁亀城会総会は三月八日練馬区江古田の高ずしで会長の練馬消防署署長佐藤英司氏（二九回卒）の三年勤務表彰祝賀会を兼ねて開催された。消防官という職業柄、三部制勤務体制のため、全員出席は不可能であったが、会員十九名中十二名が出席、和気あいあいのうちに会長への記念品贈呈の後、懇親会に入った。

当日の出席者は次の通り。（かっこ内は勤務署名、卒業回数出身中学校名）

佐藤修（本郷、二八、西荒瀬中）北本和夫（大森、二八、酒一中）佐藤英司（練馬、二九、遊佐中）佐藤豊作（城東、三〇、八幡中）橋井嘉男（渋谷、三四、酒一中）富樫功喜（日本堤、三五、高瀬中）堀敏郎（四谷、三五、平田中）斉藤次郎（麹町、三五、松山中）後藤勝弘（本庁防災、三六、八幡中）相馬弘（試験所、三六、余目中）渡部嘉一（石神井、三八、酒三中）鎌田健二（荻窪、四五、狩川中）

（連絡先、石神井消防署渡部嘉一氏）

本格派木造分譲住宅
すずらん苑
緑の薫り
[ふるさとの心を大切に、1,500棟を達成……。]
代表取締役　鈴木藤男（昭和31年卒業）
●建設大臣免許(1)第3053号　●全国宅地建物取引業協会々員

三十一年間とその後

相馬清一

昭和二十一年三月戦後の混乱のときに縁があって、酒田工業学校(旧酒田商業学校で戦時中に工業学校になった)の教員になったのが教師生活のはじまりで、二年余りで両親の居る北海道に転勤し、老後は山形でと云う両親の意向で、二十五年の夏上野伊栄太校長先生に逢い、先生の御厚情でこの年の十一月三十日付の辞令を貰い山形県立酒田高等学校に奉職しました。

以来、昭和五十七年三月停年退職するまで三十一年四ヵ月を酒田東高校で過ごさせて載き、真に感謝しています。

上野校長先生はじめ現佐々木校長まで五代の良き校長に恵まれ、且つ成沢平吾先生、松浦謙三先生等多数の大先輩教師に又良き同僚に恵まれ且つより良い生徒にも恵まれて、まがりなりにも三十年余を過ごさせて貰らい、有難く思っているところです。

迷惑に思った卒業生諸氏も多数居られるか、とも思いますが御容赦のほどよろしくお願い申し上げます。

▽校舎の変遷

赴任当時の酒田高等学校は酒田第一高等学校(旧酒中)と第三高等学校(旧酒田高女)の総合校で、東西の両校舎の移動など先生方も生徒も大変でした。

翌年には東校舎の土台修理にあわせて支え棒をうける工事も行われ更らに翌年には昼間定時制が蕨岡の宿坊に合宿しての杉沢口駒止の上の植林が始まり、私も参加しましたが大変な作業でした。現在では立派な杉の美林になっています。

また総合校であった酒田高等学校は東西が分離され山形県立酒田東高等学校となったのもこの年の二十七年の四月でありました。

昭和三十二年には定員増に伴い第二体育館(旧武道場)から渡り廊下で二階建ての北校舎四教室が完成し、又数年前より寄付募集していた第一体育館の竣工がこの年の十月で、先生方が同窓生の家庭に寄付をお願いしたりしたこともこの頃でした。

第一体育館は酒中時代寄宿舎の在った所に建ったようです。翌三十三年には昼間定時制課定は終了し、旧屋内体操場が図書閲覧室と夜間課程の給食室に二分されたのが三十四年で旧銃器庫が書庫になりました。

創立四十周年の翌三十六年二月には懐しい八幡神社が校舎西側の現在地に移転し、跡にバレーコートとなり更らに同窓会で建設された現在のプールの所が神社跡です。生徒増に伴い社会・数学の準備室が増築普通教室になったのが昭和三十八年、ヤモリの研究で総理大臣賞を得たのが昭和四十年でした。

この頃から理科教室の建設の機運がたかまり、校舎改築期成同盟会が発足し三階建の理科校舎が職員室(旧講堂)の西側に完成したのが昭和四十二年九月、プールの竣工が四十四年、四十六年から本校舎の前面に新校舎の建設がはじまり鉄筋四階建の竣工が四十七年三月で、木造の本校舎解体完了が三月末で懐しい校舎がなくなり愛惜をもって眺めました。

四十八年には職員室(旧講堂)がなくなり理科校舎に連続して社会科・芸術家の校舎が完成し、前校舎と後の校舎の二棟になりました。

然し第二体育館及び旧被服教室、旧生物教室とそれぞれの準備室は部屋として昭和五十六年の新しい第二体育館(武道館)が第一体育館の南側に新築されるまで使用されていましたが、現在はそれも解体されて、全く新しくなりました。

勤務三十一年余の校舎の移り変わりを記しましたが、校舎西側の堤の欅は昔のままで変わりありません。通用門の昔の桜は枯れ、埋められた堀の校庭は舗装され、新時代の校舎に変貌しました。

▽校風は変らず

生徒は里内先生のデザインになる女子の制服は今も続いていますが、下駄履きの禁止・着帽の自由化等時代とともに変わって来ましたが質実剛健の校内は変わらず、文武両道で頑張っています。

昭和五十年の弓道部の全国優勝、体操部の昭和四十七年、昭和五十一年の全国優勝、昭和五十二年春の選抜甲子園大会出場など、現在も、各部それぞれ頑張っているようであります。

▽そして今釣三昧?

在職中のことはこれくらいにして近況を書きます。

退職数年前より退職後のことが心の中に去来するようになり、文才も無し、好きな事は釣りぐらい、木造船でも十数年は保つので建造を考え、第三清峰丸を建造し、休みを利用して海に出て居りましたが、いよいよ退職時期になってみると、修理に費用がかかりこれでは退職後の趣味と実益にはならず、あわよくば小使銭ぐらいにはなるのではと、思い切って、FRP船を、建造進水したのが退職した年の五月です。

予定はあてにならないもので、三月中に、佐々木校長より、「南高校で来て欲しいとの事一度逢って来たら」とのことで、南高校にお伺いし態度保留して帰宅しましたが、皆様のすすめもあり、お手伝いすることにしました。

時間講師としてお手伝いに行くようになってすでに四年目に入りました。目的の漁は相変らずで、出漁する機会は多くなりましたが、不漁続きで(自分だけ)昨年も、一昨年も燃料代も出ず赤字続きです。

南高校には現在、斉藤力先生(教頭職)、高橋正雄先生、相蘇先生、佐藤健一先生と私と五名の酒東OB職員が居ります。高橋先生も私も特別進学課程が専属ですが、中学の荒廃いが、さけばれてから入学して来る生徒の質もだんだん変わって来ているようで、下学年ほどゴジャク回数が多くなっています。

私の歯も大分抜けているので聞きぐるしい点もあるかとも思うし、かえって迷惑をかけているのかも、と考えているこの頃です。

最後になりましたが、同窓生諸兄姉の御健康と御活躍を祈念しペンを置きます。

あの先生は今……

的確な教授法で、授業をリード

土田喜彦(昭和二八年卒業)

私はどちらかと言うと、理数系よりも文科系が好きだったので、物理、化学、数学といった理数系は苦手で、その授業にもピターな想い出しか残っていない。

相馬先生から教えていただいたのは、私が高校二年のときで、私の記憶に間違いがなければ、当時先生は定時制から全日制にうつられたばかりだったようにおぼえている。昭和二十七年のことである。化学というと無味乾燥な数式や図式がはんらんする授業が多い中で、懇切な説明と巧みな教授法で、それを救っていた。

生徒が授業に飽きると、先生のご体験だろうか、「みんな、日本鋼管という会社を知っているでしょう。あそこは労働条件のきびしいところでね。給料もよそよりいいことはいいのだが、危険な作業も多く、命と金の交換会社ですよ」といった当意即妙な比喩を多用して生徒を退屈させなかった。

こんな話の中でも先生は、労働の尊さというものを教えてくださったのでしょうが、当時の私たちはただ喜んでばかりいて、先生の真意を本当に理解できたかどうか、今考えてみると、はなはだ疑問である。

先生からは大きな声をだして、叱られたという経験がない。だからといって穏和なだけでなく、スジを一本通されていた。私は化学も苦手で、従って成績もよくなかったのだが、こんな怠惰な生徒も見捨てず、よく導いていただいた。その学恩には今でも感謝している。

通知表にも、必ずひと言感想がついていて「あきらめず、ヤル気を出すこと」などとしるしてあり、その都度先生のご期待にそえない自分を腹立しく思ったことも一再ならずであった。

そんな懶惰な生徒であった私だったが、相馬先生の授業では、一つだけ忘れられない思い出がある。それはたしか何学期かの期末試のときだったと記憶している。

先生がいわれるには、「今度のテストは、このプリント(二枚程度)の中から出題するから、これを全部マスターすれば良い」との予告だった。

この時、私は思わず内心シメたと思った。

日頃の汚名を雪ぐには絶好のチャンスではないかと……。そこで化学の得意な旧友に全問題を解いてもらい、それを全部数式もろとも暗記しようと考えたのである。私にとっては一大雄図だったが、記憶力には少しは自信があったので、全解答を必死になっておぼえた。さて試験当日である。まさに先生は嘘を言わず、その通りそのプリントから出題されたのである。

私は欣喜雀躍、一気呵成に答をかいた。結果は自分でも不思議なほど、満足の行く出来栄えだった。先生は本当に不思議に思われたに違いない。なぜなら日頃のテストでは0点に近い点数しかとれない者が、突如として満点に近い成績をとったのだから……。そこでその後、これで発奮して以後化学に開眼したとなれば噺は起承転結がつくのだが、先生の授業で良い点数をとったのは、あとにも先にも、これが最初で最後だった。

先生もそんな事情はうすうすご承知だったのかも知れない。しかしそれを黙って見逃して採点していただいたのも、かわいそうな生徒の心情を慮ってのことだったに違いない。

そんな慈父のようなやさしさで懇切丁寧に指導していただいたのも今もって忘れ難い。

そして私は三年生では、物理(水林先生)を選択せずその代り、日本史と世界史の社会科二課目をいっしょにとったのだから、化学の授業はまさに高校生活最後の理科となった訳である。それだけに今になって考えてみれば、もっともっと努力して先生のご教導に応えておけばよかったものをと後悔している。

今だったら、当然落ちこぼれとでも言えそうな跛行的な生徒を、良導していただいたのも時代の良さもさることながら、現在にはない先生と生徒の間に目に見えない心の交流があったように思えるのも、あながち老生の感傷ばかりではないだろう。

相馬先生の大きな全容を語るには、余りに恣意的すぎたが、最後に温和な先生のご健康とご多幸を祈念して擱筆させていただきます。

(主婦と生活社)

山形食文化の店
瀬川
瀬川扶實子(余目出身)
電話
2F 瀬川 03(584)1388
B1 アティック エイティエイト 03(588)0575
港区赤坂4-2-5(一ツ木通り)ヤブタビル
●地下鉄赤坂見附駅より徒歩2分

郷土料理
おばな
大内きく(酒田市出身)
中央区銀座一―四―一〇(大内ビル)
電話(五六一)六三四一・六四六六

庄内の地酒 蔵元から 直送します

亀楽
清酒一級 1.8ℓ 1本 1,870円
二級 1.8ℓ 1本 1,380円
辛口一級 1.8ℓ 1本 1,970円
二級 1.8ℓ 1本 1,380円

上喜元
清酒一級 1.8ℓ 1本 1,870円
二級 1.8ℓ 1本 1,380円
蔵酒一級 1.8ℓ 1本 2,160円
720cc 1本 1,400円
二級 1.8ℓ 1本 1,590円
720cc 1本 1,000円

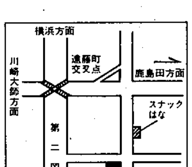
※ご発注は、2本以上でお願いします。但し、荷造費・運賃として、1.8ℓ 2本～4本 1,000円を目処に申しうけます。5本以上は無料です。運送保険付ですから破損の心配もありません。支払いは、商品到着後1週間以内、同封の郵便為替でお支払いください。

登録商標
龜樂
キラク
直送お申込みは 山形縣酒田市一番町7-29
発売元 株式會社 小野屋
電話 0234(22)4484

昭和60年度東北清酒鑑評会 金賞 受賞
吟醸 上喜元
直送お問合せは：酒田市日吉町2丁目3-25 TEL.0234-22-1541
酒田酒造㈱

●カラオケスナック
たぬき
今井俊明
(昭和28年卒業)
世田谷区三軒茶屋1―37―2三茶ビル4F
ヨイニ ナ ク オッサン
電話 412―7903
三軒茶屋交差点より徒歩3分
白鳥パチンコ上4F

宴会・商談・マージャンに
活魚料理
はな
割烹 はな 川崎市幸区小向西町3-98 ☎044(544)3055 (60名収容) 営業時間 PM3時～12まで
スナック はな 川崎市幸区小向西町4-95 ☎044(522)6271 営業時間 PM7時～AM3時まで



酒田名物
善兵エ むきそば
「むきそば」は、そばの実をそのまま食べる酒田独特の料理です。
●酒田から直送します。お申込みは下記へ。
小野米穀店 小野実千夫(昭和29年卒)
山形県酒田市北新橋1丁目19-4
電話(0234)22-0243

荘内證券
取締役社長 和嶋茂男(昭和18年卒)
本店 山形県酒田市中町1―13―8
TEL 0234(23)6111

中国訪問記

庄司悌二（昭和十五年卒業）

今回の旅行の目的は第一に中国の沈陽（元奉天）に母校をもつ私達が第三次母校学友訪問団として先生や同学朋友と会い、同窓会を実現することであった。それが実現したのだ。しかも日中とも学校制度がかわっても「時間よ止まれ」を実現し、四〇数年前の学生時代の気持にもどって中国の学友の訪中団もお互いに肩をだき、過去の悪夢を全部ぬぐい捨て日中友交の同学朋友として近代化中国のため手を握り合うことであった。

日航機より見た大地、私が青春時代一生ここで生きていこうとあこがれた大地が見えた。日本の列島改造、基盤整備もさることながら、荒野、岩山の続く大地無限と思っていたところが予想に反し、山の中腹まで整備された段々畑があり、緑の植物とダムとおぼしき青い湖があった。「きれいだなあ！」とのぞいた下に黄色い河だ。本当に黄河か？パチリ、こんな高い所から撮れたかな。まもなく近代化された北京空港。現在は首都国際空港と呼んでくださいというりっぱな飛行場であった。入国検査も笑顔だ。手荷物が確められると同時にもう旅行社のサービスで運ばれる。そこにいた同窓生は前に訪日された里桂復学兄だ。「おお、庄司！」彼はさけんで手を握った。十数人の同窓生がいる。きょうは平安広場で皆が待っているということだった。バスで天安広場に行った。同学科の任宝英学兄がいた。半月ほど前に東京であったばかりだ。「出迎えありがとう」「ご苦労さん」今晩八時から前門飯店で同窓交流会をするとのことで、旅行社の案内に従った。夜の歓迎会はすばらしかった。老師戴（先生）（旅順工大出の応用化学科の恩師）とも話した。製紙専門に指導されている。まず任宝英学兄としばらく冶金学科の朋友の情況を話し合った。先進国日本に学ぼうと目を輝かせていた。

それから鉄鋼関係は首都鋼鉄公司の里桂復学兄と話した。現在は電気炉、平炉溶解と鋳鉄、鋳鋼で鋳物、鍛造品だけ、近代的に連鋳圧延はやっていない。いずれ日本の技術と資本を取り入れ合作社として近代的にやりたいとのことであった。開放中国ではまず農業関係の自由販売による万元農家をふやしつつある。工鉱業も外国と資本、技術提携による合作公司を望んでいるとのお話。中国技術進口兒公司協理会理事の王秉正学兄が「庄司さん、私のところでは外国から輸入される技術および機械その他部品等にいたるまで全部取り扱っている。きょうは貴兄だけとゆっくりお話をする時間がないのが残念だ。しかし日本には東京事務所があるのでそこの代表を紹介しょう。今、電話番号と住所はわからないが大使館の商務参賛所できいてください。そして中国技術進口総公司東京事務所馮英橋代表と会ってお話をしてください。日本語の上手なお方で心配はないよ。」と名刺の裏に紹介してくれた。

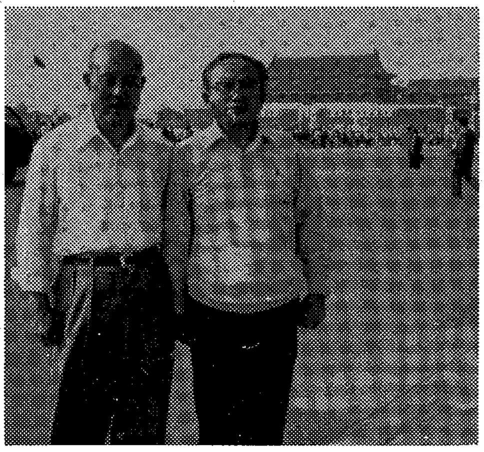
ここまで来る間、日中友好のバッジを胸にいただいた私達の姿を見て、空港や飯店で会う外国人はうらやましそうであった。また、たまたま出会った白人に、あなたはどこから来ましたかと聞いたらバージニア、と答えてくれた。また英語を話さない白人もいる。おそらく北欧や西欧の人達だろう。近代化開発の中国を注目し、外国企業は一生懸命になっているとのことだった。今、中国は先端産業の育成のため外国企業を積極的に活用しようと懸命になっている姿がわかった。また胡耀邦総書記が三、〇〇〇人の日本青年を招待するという。中国の大学生が校庭でスクエアダンスや高脚踊りを熱心に練習していた。私達の青春時代と同じだ。若いものが力を合わせてこの大地を開発し、世界平和のためにつくすことになるだろう。

沈陽では中国の近代化を表現するに相応する広大な敷地と建物を有し、米国マサチューセッツ工科大学に続けと発展しつつある東北工学院（旧奉天工業大学）を訪問した。同学講堂で院長（プレジデント）陸鐘武先生から「皆さんをこの大学の卒業生として待遇し、三万余人の卒業生名簿にのせる予定です。それを今どのようにしようかと思案しています。また米国、日本、スウエーデンと同じように学校制度ができています。それぞれの国と姉妹校をもつりっぱな大学となりました。科学と技術の自由な研究から世界の平和と近代化中国の建設に努力しましょう。」という趣旨のお話があった。そして迎賓室に用意した中国料理で院長をはじめとして多数の教授連とテーブルを囲み、同窓会の宴を催していただいたことには本当に有難く感激した。

話は行程の逆順になって申し訳ないが、沈陽（元奉天）の私達が入学した当時建てられた校舎および寮跡、今は沈陽机電学院（機械電気大学）となっていたが、その門に入ったバスから降りたとき、歓迎する教師達のなかに見覚えのある若い教師がいた。瞬時には思い出せず、中国語も出てこない。「你好」（ニーハオ）だけである。案内された講堂までの廊下で上手な日本語がかえってきた。名刺を交換したとき思い出した。ちょうど去年仙台での同窓会と、今年の春中国留学生の帰国送別会で会った林克光君であった。中国沈陽機電学院鋳造教研室講師、室蘭工業大学工学部研究員であり、室蘭工大の金属工学科で勉強した先生で、今後のお互いの勉強を約束した。またここでは沈陽机電学院副院長、陳士粱老師から当学院のならびの私達が学んだ旧校舎および赤れんがの寮が中国近代化により発展的に取り壊される計画等の話があり、感無量であった。

その夜は機械学科第一期の董鴻書（現遼寧省高等教育局長）先輩が春まで学長を務めた遼寧省沈陽市遼寧大学の寮食堂で日中友好同学朋友の同窓交流会を催していただき、学生時代にかえってテーブルを囲み中国酒を酌みかわし、肩を組んで四季の歌を歌い合い、感激の一夜を過ごした。

（寿産業技術顧問）



天安門広場で同学明友任学兄と庄司（向かって右）

私が中国（満州）で学生時代お世話になった亀城会関係の方々にこの中国訪問を報告し御礼に替えさして頂きます。

▽旧職員、大原誠一先生、当時師範学校長
▽昭和二年卒（三回）今野元海様、当時満州赤十字病院医師
▽昭和四年卒（五回）本間悌治様、当時満州医大附属病院医師
▽昭和六年卒（七回）今野元明様、当時旅順医学堂医学生
▽昭和一一年卒（一二回）若林義治様、現東京亀城会副会長（NTV）
▽昭和一二年卒（一三回）五十嵐敬吾様、当時満州軍官学校教官
▽昭和一六年卒（一七回）工藤績様、当時奉天工業大学生
▽昭和二六年卒（二六回）須田寛様、現本間物産専務

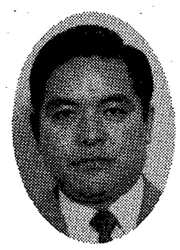
訪中之謳

近代中国　大地無辺　中日友好　同学朋友
交流再会　笑顔満開　熱烈歓迎　歴史幽玄
性格好好　観光多彩　挙登長城　鐘声延寿
菜餐好吃　後悔不知　皆喜楽遊　謝謝再見

甲子秋　庄司悌二

相馬先生に想うこと

斎藤昭一（三六回卒業）



昭和三四年に約三百名の全日制が入学を許可されて、創設当時からの物と思われる門柱を通りぬけて校舎に入った。土手があり、廻りには桜の樹があり、後に奇麗な花を開いては我々の目を楽しませてくれた。（桜花爛漫に入学の喜こびを感じた）

我々はすぐに六クラスに分割され、二割程度居った乙女達はその三クラスに編入となった。一年一組に割り当てられた小生のクラスは幸いにして共学の権利を得たのである。

同年に図書館は星霜四十周年を記念して旧体操場を図書閲覧室と夜間制生徒の食堂となり、立派に出来上った。

学級担当をして下さった恩師達とは山麓会発足後お会いする機会も度々であるが、教科担任をして下さった恩師との出合いは少ない限りであり少々寂しいものであると思う昨今、特に相馬清一先生を思い出す。

『酒田の水も、エチオピアの水も比重はみな一で等しく……』と我々に教えて下さったあの相馬先生は今、どうしておられるのだろうか。恩師とは無関係ながらエチオピアは水不足で大変な国際問題となっておる。

当時恩師は剣道部のスポンサーをもして居り、良く教壇に立ち我々に$CaSO_4$, $MgSO_4$等を教える傍ら、教室入口近くで教壇の前に席を置いていた小生の前に丸イスを持って来ては長い時間、剣道部への入部、勧誘を熱心にされた事を気憶している。

たびかさなる誘いにも乗らぬ小生に先生はどうしても入部して欲しかったのだろう。最後の頃は『君のその曲った精神を剣道部で叩き直してやる』と云ってはすすめてくださった事を忘れることが出来ない。

入部して相馬先生のご指導の元で、精神を叩き鍛えて頂いて居ったら、小生の人生も今より増しな社会人になれたのでなかったのだろうかと思えば、後悔先に立たずの感がするし、又、入部してたら先生との交流も楽しいものになってたろうと思う時、今は残念な気が致すのである。

『酒田の水も、エチオピアの水も比重はみな一で等しく……』と教えて下さった相馬清一先生どうぞお元気で！

（本間物産取締役、東京支店長）

第一回常任理事会

会則第六条の常任理事は、次の方に会長より委嘱され、全員のご承諾を頂きました。六十年度第一回常任理事会は四月六日、千代田区内神田、荘内銀行東京支店会議室で開催され、
①常任理事紹介
②六十年度総会の件
③六十年度会報発行の件
④会発展のためのご意見・その他
を協議、六十年総会執行委員長に、本年は卒業年度の最後がゼロの回が執行準備回のため、第十回卒業、若林邦三氏（東京工芸大講師）、副委員長に第二十回卒業、北村総一氏（梓設計㈱常務取締役）が任命され、総会の日時、場所の選定総会の運営が、委任された。特に懇親会費が、この数年間四千円であったのが議題になり、本年度より、諸物価高騰のため千円値上げすることを了承された。

会報発行は昨年通り、編集長に佐々木高一氏（三五回）に委嘱され、常任理事会が全面的にバックアップを約束。会の発展のために総会への動員方法を協議した。

常任理事（◎は当日出席者、数字は卒業回数、敬称は省略させて頂きました。）◎曽根原重郎（九）◎若林邦三（一〇）、乙坂進（一一）、◎本間修士（一四）、庄司悌二（一六）佐藤弘一（一八）、◎北村総一（二〇）、◎大川龍太郎（二一）、◎阿部鉄一（二二）、仲條立一（二三）、◎高橋重雄（二四）、◎村上義八郎（二四）、◎菅原敏雄（二五）、青山修（二六）◎尾形五郎（二七）、土田喜彦（二八）、本間英生（二九）、◎堀修二（三〇）、◎小野徳次郎（三一）、大滝千佐子（三二）、◎鈴木義宏（三三）、◎浅沼久美子（三四）、◎奥山紘史（三五）、◎小永光隆一（三六）、熊谷正義（三七）、松本彦造（三八）、◎元木徹（四二）、◎丸藤晋（四六）会長◎河村竜郎（九）、副会長◎若林義治（十二）、◎佐藤昌祐（十三）、◎内山敬司（十五）事務局◎佐藤順陽（一九）、◎佐々木高一（三五）

常任理事は、会長の同期以降の会員に委嘱されるのが前々会長より不文律となっております。

保存版
各界でご活躍の東京亀城会々員の皆様
まさかのときのご相談は、同窓生の皆様へ………

相馬法律事務所
主任弁護士　相馬　功
（昭和31年卒業）
事務所：港区虎ノ門1-5-16　晩翠ビル
電話　591—4166
自宅：狛江市西野川2—18—18
電話　480—5726

●特許申請のご用命は
鈴木特許事務所
弁理士　鈴木淳也
（昭和28年卒業、昭和56年特許庁退官、審査官・審判官歴任）
事務所　文京区本郷3-3-1　お茶の水KSビル
電話　812—5955
自宅　千葉県我孫子市古戸230—4
電話　0471—88—9479

西上尾上林眼科
院長　上林　茂
（昭和27年卒業）
病院：埼玉県上尾市小泉8—44
電話　0487（81）0290
自宅：埼玉県上尾市小泉379-14

財団法人荘内館専務理事
富士通株式会社川崎病院
常務理事 病院長　内山敬司
（昭和一四年卒業）
病院　川崎市中原区上小田中一三五四
電話〇四四（七七七）一一一一㈹
自宅　世田谷区中町三—一四—六
電話　七〇一—五二〇二

堀　法律事務所
主任弁護士　堀　廣士
（昭和30年卒業）
事務所：中央区銀座1-7-6　タニザワビル
電話　03（564）0171・0179
Fax　03—564—0174
自宅：千葉県柏市西山1—12—9
電話　0471（74）2278

丸藤（がんどう）宏事務所
司法書士　丸藤　宏
（昭和40年卒業）
千代田区三崎町2-2-13　三崎信愛ビル
電話　261—8040

丸藤晋建築設計室
丸藤　晋
（昭和46年卒業）
渋谷区渋谷3—5—3
渋谷グランドハイツ1106
電話　486—0865

光と影の調和を追求する商品写真
And Photography
代表　本宮正幸
（昭和36年卒業）
築地スタジオ
〒104東京都中央区築地2・14・4三松フェニックス第2東銀座ビル201
Phone 545-9320
新富スタジオ
〒104東京都中央区新富2・12・6新幸ビル1F
Phone 553-0620

真坂歯科医院
目黒区自由ケ丘1—8—20
（自由ケ丘駅南口前）
電話　718—8470
京町歯科医院
川崎市川崎区京町1—17—1
電話　044（355）0109
歯学博士 院長　真坂信夫
（昭和33年卒業）

国公立大現役一三三名合格

―本年進学状況―

知野　弘
（母校教諭、進路部長・昭和三五年卒業）

新教育課程による入試の初年度として迎えた今年の大学入試結果では、国公立大の現役合格延数一三三名（これまでの最高一二四）実数一一七名（同一〇三）と、共通一次はじまって以来の新記録を樹立した。

大学合格状況（過年度卒を含む延数）

（　）内は過年度卒合格数

	今年度	昨年度
〔国立大〕		
北海道大	1	5
北海道教育大	2	2（1）
弘前大	10	6（3）
秋田大	3（1）	2（2）
岩手大	5（2）	4（2）
東北大	10（1）	11（3）
山形大	61（10）	37（8）
筑波大	1（1）	4（1）
宇都宮大	4（1）	3
千葉大	2（1）	6（1）
東京大	1（1）	4（2）
東京学芸大	3	4
東京農工大	1	
東京芸術大	1（1）	
電気通信大	1	
一橋大	2（2）	
横浜国立大	4（1）	4（1）
新潟大	17（7）	10（3）
富山大	1	1
信州大	1	
山梨大	3	1（1）
静岡大	2（1）	
名古屋大	1	1
その他国立大	11（3）	4（21）
〔公立大〕		
高崎経済大	5（2）	
東京都立大	1	3（1）
都留文科大	14（2）	7
その他公立大	1	2
〔文部省所管〕		
気象大学校	1（1）	
その他		4（3）
国公立大学等計	170（37）	130（35）
〔私立大〕		
東北学院大	12（5）	7（1）
文教大	5（1）	5（3）
青山学院大	4（4）	4（2）
学習院大	1	2
慶応義塾大	6（4）	7（4）
国学院大	1	4（1）
駒沢大	8（5）	2
専修大	4（1）	3
中央大	3（2）	10（6）
東京理科大	2	3（3）
東洋大	4（1）	1（1）
日本大	13（6）	5（4）
法政大	8（6）	5（3）
明治大	3（1）	10（2）
立教大	2（2）	1
早稲田大	8（5）	7（5）
その他私立大	53（24）	66（21）
私立大学計	137（67）	142（56）

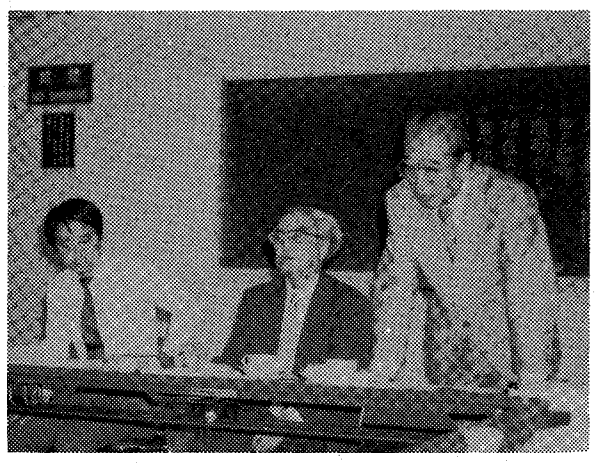
今春の卒業生は中学でのゆとり教育の影響を受け、入学当初から低学力を指摘されたが、危機感を背景に最後まで真面目な努力を積み重ねたことが成功の原因と見られる。

大学別では山大の現浪合わせて六一名をはじめ、新潟大、弘前大国立大と併願できる公立の都留文科大が昨年より大幅増になった。全体として中堅層が厚く、上下位層が薄かったので、合格数は増加したが、北大、東大、京大などの難関校では苦戦している。今後の課題である。学部別では教育学部六一名、工学部二八名（現役のみ）が他を引き離している。

私大の合格率は年々低下している。特に首都圏私大の難化が、いわゆる有名私大から中堅校に、更には中堅下位校にまで進み、すべり止めが見当らない状況である。

一方、生徒の方はあくまでも有名大へのあこがれ受験に止まっているため、現役での合格は勿論、浪人してもなかなか入りにくい。

短大受験は今年は少なかったが医療技術短大を中心に、文学、経済、教養等である。短大進学は現役で五名のみ、代わりに専門学校への進学が今年二二名と、年々増加の傾向である。内容は看護八、会計、ビジネス四、英語三、他に写真、調理、モード等となっている。



左から小野氏、河村会長、前田氏

在京予備校生激励会

前田都立羽田高校長ら出席

本年度在京予備校生激励会は、六月二一日、東京都渋谷区民会館で、母校から、知野弘、新国寸、伊藤大輔の先生を迎えて開催された。当会からも、例年通り河村龍郎会長、村上義八郎、土田喜彦、奥山紘史の常任理事のほか、アドバイザーとして、受験生指導について実績を持つ都立羽田高校々長前田正男氏（一二回卒業）東京工大教授小野昱郎氏（三一回卒業）鳳舞山経営の半田節彦（三五回卒業）らが出席。一般的な受験生活の過し方と共に、希望校の選定から個人的な相談にまで、細かいアドバイスがあたえられ、特に実力の差のつく八月期間の乗り切り方など実戦に即した指導を受け、全員の来春の第一希望校突破を期して散会した。

◆五十九年度総会出席者名簿

来賓　東京酒商同窓会中村豊二、有煙会（酒田高女、西高同窓会）東京支部小野たけ江、園田多美子森万寿、鶴翔会（鶴岡中学、南高同窓会）東京支部中里欣一、加藤有紘、宇佐美勝夫、城畔会（鶴岡工業同窓会）東京支部村山俊治、亀城同窓会本部副会長⑲和嶋茂男、同校内幹事㉓渡部純一、

会員②小松直幸③菅原喜代治、高橋広記⑤神長精一、松平藤太郎⑥加藤文吉、太田直晋⑦菅原藤也⑧金子智一、大山雄司、加藤敏郎⑨曽根原重郎、河村龍郎⑩若林邦三、村上富吉⑪乙野恒次郎⑫若林義治⑬佐藤昌祐⑭本間修士⑮内山敬司⑯藤井常雄、庄司悌一、越後谷悦郎⑱佐藤弘一⑲土屋剛、瀬川賢一⑳前田正男、佐藤豊作、北村総一㉑大川龍太郎㉒阿部昭吾、阿部鉄一、佐久間正、本間晋士、佐藤秀弥㉓仲條立一、倉田研一㉔村上義八郎、根上茂三、㉕金湖東吉、松田勇、五十嵐儀勇、佐藤知章、佐藤恒知、佐々木猛、松本益男、大谷良一㉖斎藤博、時田茂光、渥美英夫㉗富樫昌敬、佐藤悦彦、上林茂、兵藤立美㉘土田喜彦、石山敬治、伊藤満志雄、白崎和夫㉙佐藤順陽、佐藤英司、岡宗晶子、石本隆一郎、佐藤昭、本間充、本間英生、池田教一郎㉚佐藤靖、小野寺玲子、石川康男、堀修二、鈴木仁、柴田碩、佐藤朋子、斎藤勉、佐々木平俊、小野徳次郎、鈴木義岑㉛佐藤祐輔、遠田忠治、井上武司㉜小口邦子、石川桂子、八木美知子、鹿野健、佐藤明人㉝浅沼久美子、佐藤隆一、長谷部和良㉟富樫功喜、後藤功記、富樫健三、染谷英雄、佐々木高一、佐藤力、斎藤次郎、宗雄司、三浦吉光、後藤武美、村上義昭、斎藤貞治、奥山紘史㊱相馬弘、後藤勝弘、沢田裕、斎藤昭一㊳村田晃、渡部嘉一、斎藤斉㊴遠田健吾、相模史男、須藤慶記、佐藤豊、志田誠、渡部源次、吉泉征勝、東海林孝司、丸岡久芳、佐藤新生、信夫正彦、五十嵐義晃、斎藤テル㊶金井敏明㊷西蔭秀樹、元木徹、小野邦男、阿部茂明㊸斎藤勇吉、五十嵐太、白旗定幸㊹佐藤光保、㊺村山成幸、㊻丸藤晋、高橋努㊼興進㊽小山光男、加藤将展㊾和島茂樹㊿平山晶子

庄内地区高校同窓会

東京支部名簿

▽酒田商業東京同窓会　会長館内四郎氏、東京都台東区台東一一二七一九、毛塚ビル電話〇三一八三六一〇八〇五。

▽有緯同窓会東京支部（酒田西高酒田高等女学校）会長小野タケ江様、東京都新宿区高田馬場四一二四一一〇電話三六三一三六六一。

▽酒田北高同窓会東京支部　会長小野正美、東京都豊島区長崎五一五一九電話〇三一九五九一五〇三三。

▽東京鶴翔同窓会（鶴岡南高、鶴岡中学校）会長梅津正吉氏、東京都千代田区内神田二一六一九、荘内銀行東京支店内電話〇三一二五六一八九一一。

◇城畔同窓会京浜連合支部（鶴岡工業高校、鶴岡工業）村山俊治氏千葉県柏市泉町八一四、電話〇四七一六七一四八一六。

編集後記

発行日が十日遅れました。阿部事務局長の海外出張と重なり、ご依頼した原稿の集りが意外と長引いたのが原因。しかし、追い込みの段階で、白畑悟先輩（二三回、前読売新聞文書課長）、大滝広治先輩（二三回、鹿島出版会編集長）の絶大なご協力により、ぎりぎりで間に合いました。広告取材は例年通り㈱栄広の奥山紘史社長（三五回）にお願いしました。皆様に深く感謝いたします。

お詫び

昨年発行の東京亀成会々報十面に記載の昨年度（五十八年）会費納入者名中、十六回卒業高橋浩氏、三四回卒業伊藤田紀子氏のお名前が脱落いたしておりました。お詫びと共に訂正させて頂きます。

（事務局）

総会のお知らせ

本年度総会、懇親会を左記により実施いたします。

例年通り、ご案内状は、全員には発送いたしませんので、同級生、お知り合いの同窓生の皆様とお誘いなされて、ご出席ください。地元のご協力で郷土色豊かなお土産も用意いたしております。

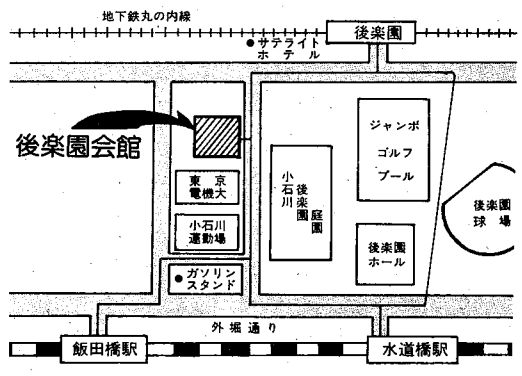
―記―

日時　十一月八日（金）
　　午後六時より
会場　文京区後楽一ノ七ノ二
　　後楽園会館
総会議題　①会務・会計報告②役員選出③その他
年会費　一、〇〇〇円
懇親会費　五、〇〇〇円
（但し女性会員、五〇年以降卒業生は四、〇〇〇円、夫婦会員のご出席は半額）

東京亀城会会長　河村　竜郎
六十年度総会
懇親委員長　若林　邦三
副委員長　北村　総一

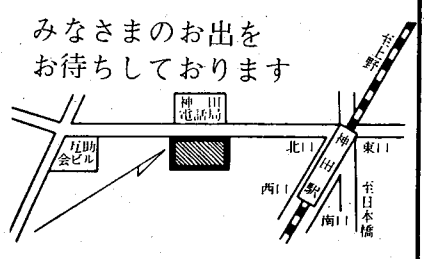
北村副委員長

若林委員長



ふるさとの銀行

みなさまのお出を
お待ちしております



荘内銀行　東京支店
千代田区内神田2―16―9
（神田駅北口より歩いて3分）
TEL　256―8911

手続きカンタン
便利ローン

使いみちは全くの自由。今、ご計画のプランの早期実現のため、豊かな暮らしづくりのため、どうぞお気軽にご利用ください。

しあわせづくりにお手つだい……

山形相互銀行
東京支店
新宿区西新宿7―21―1
電話　365―1131（代）

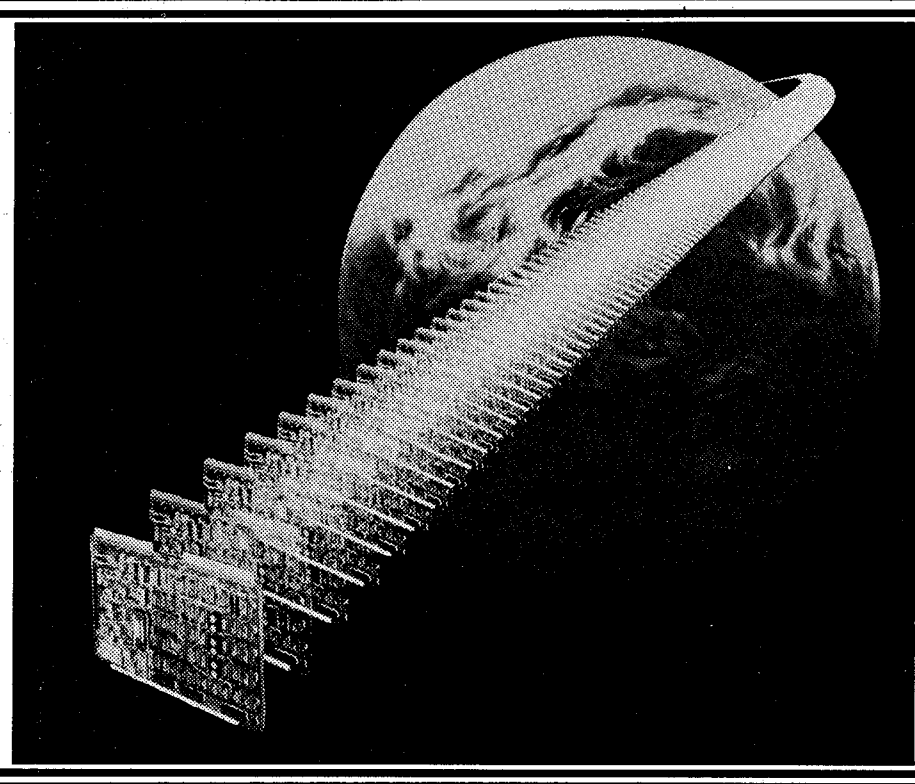
トランジスタから超集積回路まで

エレクトロニクスの総合商社

株式会社　栄電子

代表取締役社長　染谷英雄（昭和35年卒業）

本社　東京都千代田区外神田2―5―12　☎03（257）1801㈹
立川　東京都昭島市東町4―6―7　☎0425（45）6110㈹
横浜　横浜市戸塚区矢部町283　☎045（881）2701㈹
千葉　千葉市汐見丘町9―11　☎0472（47）5570㈹
本庄　児玉郡上里町大字嘉美字立野南　☎0495（33）7791㈹
相模原　相模原市上溝5―2―14　☎0427（62）1313㈹
山梨　甲府市中央2―7―25　☎0552（28）0335㈹
エレショップ　東京都千代田区外神田1-11-4 ミツワビル5F　☎03（253）8426
エレショップ　東京都千代田区外神田1-11-4 ミツワビル3F　半導体センター　☎03（255）9505



見えますか？聴こえますか？
エレクトロニクスの鼓動。

●栄電子のエレクトロニクス部品は、あなたのお近くで活躍しています。
テレビ、ビデオ、マイカー、電話、エア・コン、クロック、ウォッチ……
もちろんME（医療機械）やコンピュータまでエレクトロニクス部品のフィールドは、限りなくひろがっています。